ちいさな町の偉大な画家

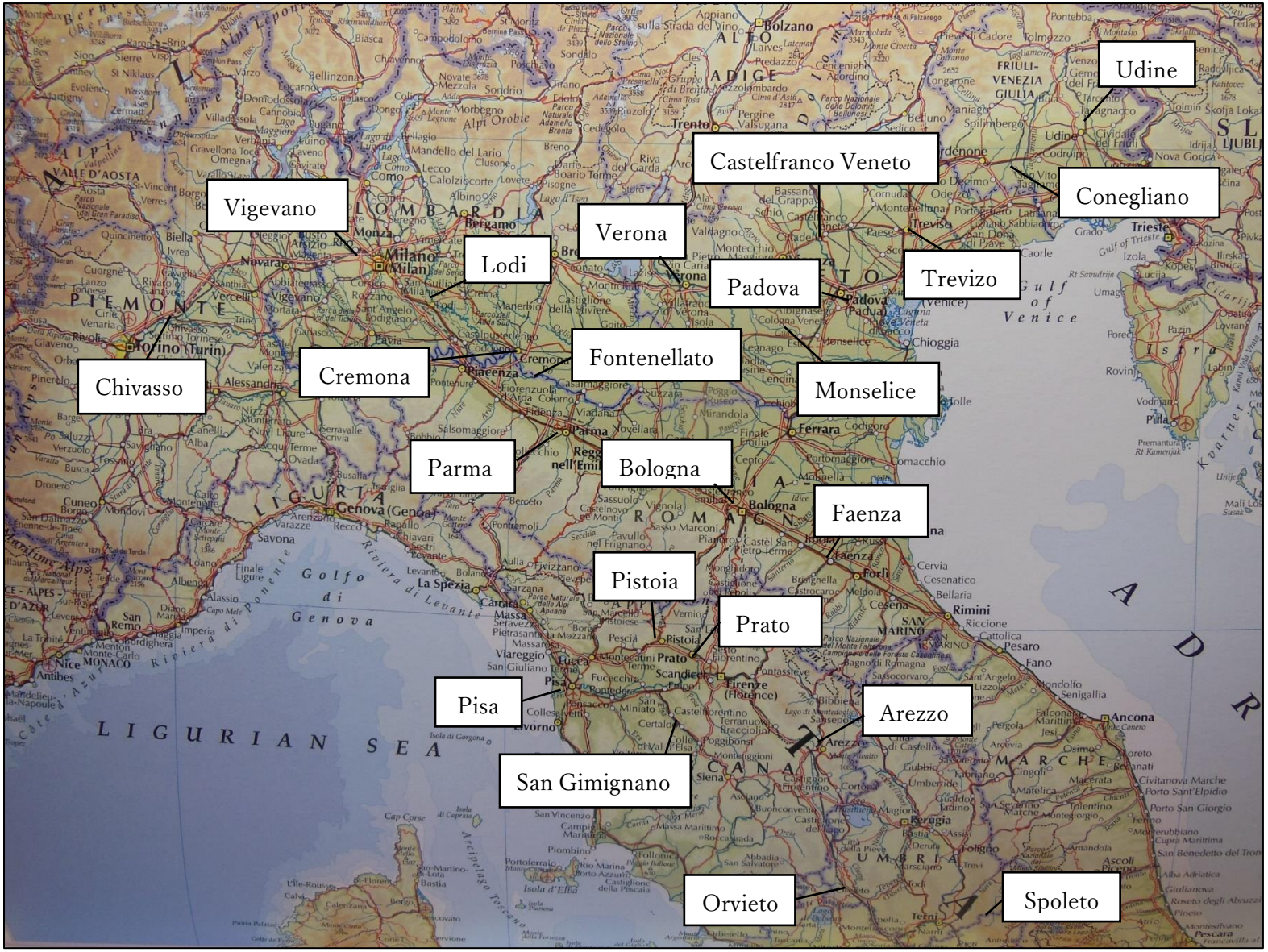
ちいさな町の偉大な画家

イタリアには人を魅了してやまない街が多くあります。
ローマやミラノ、フィレンツェ、ヴェネチア、などの街には大勢の観光客が訪れています。またこれらの街には古今東西、多くの芸術家が集い、技を磨き、競い合ってきました。アルプス山系を超えて、北から東から西から多数の画家がこれらの芸術の都を目指して集まってきていました。
高名な画家の作品は世界各地に渡り、ロンドンやパリ、マドリッドなどの美術館で見ることもできます。また日本で美術展が開催され、それらを見ることができる場合もあります。
しかしながら、イタリアでもそれほど大きな都市ではなく、片田舎ともいえる場所にも、きらりと輝く名品が残されています。しかもその作品はその場所に行かないと見られません。
もし、ふらりと立ち寄る機会があったら、是非とも見て頂きたい、そのような名品を町の案内を中心にしてまとめてみました。
町の美術館に収容されている場合もありますが、聖堂内に描かれたフレスコ画が多くなっています。ただし、素晴らしいフレスコ画が残っていても、ロマネスク時代の作品の多くは制作者の名前が分からないので、入っていません。
画家の紹介というより、町の案内が中心ですので、ジョットのような高名な画家も入っています。
なお、個人的な基準で選んでいますので、パルマやボローニャ、ヴェローナ、など大きな街が入っていますが、アッシジやシエナのような有名な街は入っていません。
町の場所は添付の地図をご参照ください。

補足：
写真は基本的に現地で撮影したものですが、撮影禁止の場合もあります。書籍からの引用はその旨記載してあります。

目次

町の名前	画家の名前
Arezzo（アレッツォ）	Piero della Francesca（ピエロ・デラ・フランチェスカ）
Bologna（ボローニャ）	Vitale da Bologna(ヴィターレダ・ボローニャ)
Castelfranco Veneto（カステルフランコ・ヴェネト）	Giorgione（ジョルジョーネ）
Chivasso（キヴァッソ）	Defendente Ferrari（デフェンデンテ・フェラーリ）
Conegliano （コネリアーノ）	Cima（チーマ）
Cremona(クレモナ)	Il Pordenone（ポルデノーネ）
Faenza(ファエンツァ)	Felice Giani（フェリチェ・ジャーニ）
Fontanellato（フォンテネラート）	Parmigianino（パルミジャニーノ）
Lodi（ローディ）	Callisto Piazza（カリスト・ピアッツァ）
Monselice（モンセリチェ）	Palma il Giovane（パルマ・イル・ジョヴァーネ）
Orvieto（オルヴィエト）	Luca Signorelli （ルカ・シニョレリ）
Padova（パドヴァ）	Giotto（ジョット）
Parma(パルマ)	Correggio(コレッジオ)
Pisa（ピサ）	Buffalmacco(ブッファルマッコ)
Pistoia(ピストイア)	Pisano（ピサーノ）
Prato(プラート)	Filippolippi（フィリッポリッピ）
Sanginignano（サンジミニャーノ）	Benozzo Gozzoli（ベノッツォ・ゴッツォーリ）
	Lippo Memmi(リッポ・メンミ)
Spoleto（スポレト）	Filippolippi（フィリッポリッピ）
Treviso（トレヴィゾ）	Tomaso da Modena（トマソ・ダ・モデナ）
Udine（ウーディネ）	Tiepolo（ティエポロ）
Verona（ヴェローナ）	Pisanello（ピサネッロ）
Vigevano（ヴィジェヴァノ）	Bernardino Ferrari(ベルナルディーノ・フェラーリ)


Udine
Castelfranco Veneto
Conegliano
Vigevano
Verona
Lodi
Padova
Trevizo
Chivasso
Cremona
Fontenellato
Monselice
Parma
Bologna
Faenza
Pistoia
Prato
Pisa
Arezzo
San Gimignano
Orvieto
Spoleto

アレッツォ　：
Arezzo

ピエロ・デラ・フランチェスカ
Piero della Francesca

ローマから鉄道でフィレンツェに向かって 3 時間ほどかかります。フィレンツェからは 1 時間で着きます。

旧市街は五角形の城壁で囲まれていた城塞都市でしたが、現在では城壁は一部に残るだけです。
駅前から旧市街には、北に向かって坂道を登っていくことになります。1 キロメーター程坂道を登り、頂上に到着すると大聖堂があります。その東にはメディチ家の要塞が（Fortezza Medicea）あります。
周囲の丘はオリーブ畑で、長閑なトスカーナ地方の風景が広がっています。
エトルリア時代にまで遡る古い街で、ギリシャ神話の怪獣キメラ（Chimera di Arezzo BC.5 世紀）の青銅像が発見されたことから、アレッツォはエトルリアの主要都市だったと推定されています。
ローマ時代の遺跡として街の東に円形競技場（Anfiteatro）があります。
その後独立都市となり繁栄した時代も有りましたが、シエナ（Siena）やフィレンツェとの抗争に明け暮れ、結局 14 世紀にはフィレンツェの支配下に入っています。
「芸術家列伝」の著者で自身もルネサンスの芸術家であったヴァザーリ（Giorgio Vasari）と、画家のグイド・モナコ（Guido Monaco）、偉大な詩人のペトラルカ（Francesco Petrarca）、など多くの有名人を輩出している街です。
駅前から旧市街に向かう通りはモナコ通り（Via Guido Monaco）で、広場（Piazza Guido Monaco）にはモナコの立像があり、大聖堂の脇の公園にはペトラルカの立像があります。

〇聖堂
◇大聖堂　　（Duomo）
1278 年に建設が始まり、1510 年にやっと完成しています。背の高いゴティック様式の聖堂です。
聖堂内は三廊式で、　中央主祭壇の左手には 14 世紀初めのアレッ

ツォの司教ターラッティ（Guido Tarlati）の墓碑が有り、その隣にフランチェスカ作「マグダレのマリア」の小さなフレスコ画があります。

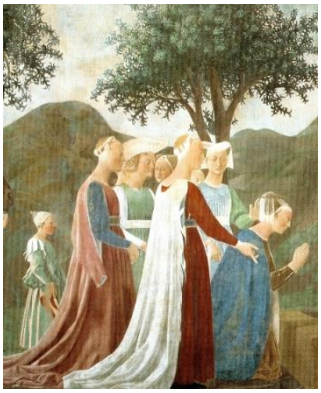
◇聖フランチェスコ聖堂　　（San Francesco）

駅前から市街地に向かうモナコ通りを進み、坂道を登っていくと聖フランチェスコ広場に出ます。広場に沿って右折すると聖堂の正面に出ます。聖堂正面の左手に回り、サンフランチェスコ通りを下ると聖堂の横に扉口があり、内陣へ入る入場券が購入できます。
13 世紀に建設されたロマネスク様式の聖堂で、一箇所の正面扉口の上に丸窓があるだけの、特徴の無い小さな聖堂です。
聖堂内の中央祭壇の奥にフランチェスカが 1453 年から 1464 年にかけて描いた大画面のフレスコ画があります。それが「聖十字架伝説」です。
伝承によりますと、エヴァがアダムを誘惑した楽園のリンゴの実の種がアダムの墓に植えられ、そこから伸びたリンゴの木は、ソロモン王が宮殿建設の際に木材として利用されることになります。ところが、どうしても木材の大きさが合わなかったので、橋に使用していました。
シバの女王がその橋にさしかかると、その木材が、いずれ救世主の死に関連すると認識したため、ソロモン王は災いをさけるために木材を地中に埋めさせた、とされます。

その木材が時代を経て、ローマ時代に掘り起こされ、キリストが磔刑になった際の十字架に使用されたとされています。
この木材の由来と、キリストの磔刑に使用された十字架がどのようにしてエルサレムで発見されたのかを描いた一連のフレスコ画が、「聖十字架伝説」と呼ばれています。
313 年のミラノ勅令により、キリスト教はローマ皇帝のコンスタンティヌス帝により公認されます。皇帝の母親のエレノア妃はエルサレムに巡礼に赴き、その地で真実の十字架を発見し、一部をエルサレムに残し、一部をコンスタンティノープルに持ち帰っています。

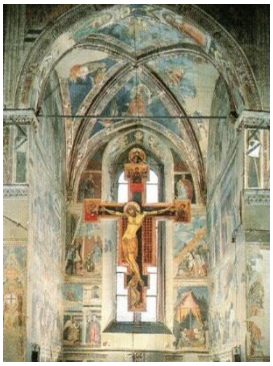
フレスコ画は三部構成になっています。

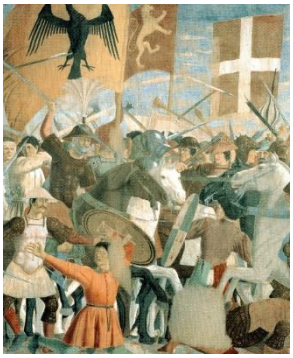
最上段の「アダムの死と埋葬」では老齢となったアダムとエヴァの描き方が注目されます。次いで「シバの女王とソロモン王の面会」があり、最下段には「コンスタンティヌス帝のマクセンティウスに対する戦いの勝利」が描かれています。その側面の「コンスタンティヌス帝の夢」、は夜の情景が描かれた作品として最初の例とされています。



もう一面の最上段には「十字架礼賛」があり、次いで、「真の十字架の発見」となります。エレノア妃の服装は描かれた時代の衣装であり、背景のエルサレムの風景はアレッツォの街で代用しているため、当時の様相が良くわかります。最下段が「ペルシャ王への勝利」です。戦闘場面はルネサンス時代の戦闘方式で描かれています。

側面には「受胎告知」が描かれています。





聖堂内には予約なしに入場できますが、中央祭壇上にキリストの磔刑の板絵が下げられているために、内陣に描かれている「聖十字架伝説」は良く見えません。予約して中に入り、じっくり鑑賞することをお勧めします。

なお、写真撮影は禁止されています。

〇ピエロ・デラ・フランチェスカ（Piero della Francesca）（1415-1492）

イタリア・ルネサンス初期の画家です。

アレッツォの郊外にあるボルゴ・サント・セポルクロ（Borgo Santo Sepolcro）で生まれ、地元の画家について学んだ後、フィレンツェに出て、フラ・アンジェリコ（Fra Angelico）やドナテッロ（Donatello）と共に修業しています。サンタマリア・デル・カルミネ聖堂（Santa Maria del Carmine）のブランカッチ礼拝堂にある、マッゾリーノ（Masolino da Panicale)とマザッチョ（Masaccio 本名 Tomma di Ser Giovanni di Mone Casi）が共同して描いた「聖ペテロの生涯」に大きな影響を受けています。

地元のサンセポルクロに戻り、「慈愛の聖母」衝立（Polyptych Madonna della Misericordia）

を描いています。その間にフェッラーラに赴き、エステ城にフレスコ画を描くとともに、後にフェッラーラ派と呼ばれる画家に影響を与えています。
リミニ（Rimini）では領主のマラテスティーノ（Malatestino）の肖像画を描いています。「キリストの復活」や「聖母の妊娠」（Madonna del Parto）の他、現在ロンドンの国立美術館に収蔵されている「キリストの洗礼」などの作品は地元のために描かれたものです。
主要作品例
Milano：Pinacoteca di Brera：「モンテフェルトロの祭壇画」1460 年代
Urbino：Galleria Nazionale delle Marche：「キリストの鞭打ち」1460 年代
Firenze：Galleria degli Uffizi：「ウルビーノ公夫妻の肖像画」1472 年

絵の出展：
Birgit Laskowski,*Piero della Francesca*,Gribaudo,2007.
London, National Gallery の「キリストの洗礼」は筆者撮影

ボローニャ　：
Bologna

ヴィターレ・ダ・ボローニャ
Vitale da Bologna

ミラノから特急電車で２時間、ローマからはフィレンツェを経由して２時間半ほどで着くエミリア・ロマーニャ地方の中心都市です。
ボローニャの街の歴史は古く、紀元前 6 世紀から 7 世紀のエトルリア時代までさかのぼることができます。共和制ローマの北方進出に伴って紀元前 218 年にピアチェンツァ（Piacenza）が建設され、ボローニャは紀元前 189 年に建設されています。紀元前 187 年にピアチェンツァからアドリア海の都市、リミニ（Rimini）までを結ぶエミリア街道（Via Emilia）が建設されると街道の中心地に存在する交通の要所として発展していきます。首都がミラノに置かれるとビザンツィン帝国とを結ぶ文化の担い手として、5 世紀迄繁栄を続けました。

その後、イタリアのみならずヨーロッパの中心都市となったのは、1088 年にヨーロッパで最初の大学が創設され、学問・文化・芸術の中心となって著名な指導者が集まり、学生も全ヨーロッパから集まり、人口も増え経済も発展してからでした。
ボローニャ大学ではペトラルカ、ダンテ、ガリレオ、コペルニクスなどの著名人が学んでいます。
自由の気質は強く、1164 年には神聖ローマ帝国から派遣された支配者を追いだし自由都市を勝ち取っています。その後神聖ローマ帝国皇帝派とローマ教皇派との戦いに巻き込まれて幾度の戦いを経験しています。
ドメニコ派の総本山である、聖ドメニコ聖堂や巨大な聖ペトローニオ聖堂など著名な聖堂だけでなく、市内には大小、数えきれないほど多くの聖堂が存在しています。
歴史的建造物の他、ボローニャ派の作品を多く保持する聖堂と、国立美術館（Pinacoteca Nazionale）の他にも多くの美術館があり、中世博物館（Museo Civico Medievale）や考古学博物館（Museo Civico Archeologico）、図書館、大学の講義室など見るべきところが充実しています。
また、美食の街としても有名で、タリアテッレ・アル・ラグーやラザニアなどの郷土料理のほかモルタデッラやチーズ、高品質なワインを産し、高級なレストランから下町の

飲食店まで、どこでも豊かな食事を楽しむことができます。
13 世紀ころには、市内に 100 を超える塔が存在していたといわれています。当初は戦闘目的で建設されましたが、各家がその財力を誇示する目的で塔を建てるようになっています。現在見られるのは、ラヴェナーナ広場（Piazza di Porta Ravegnana）のアシネッリ(Gh erardo Asinelli＝97.2 ﾒｰﾀｰ)の塔とガリセンディ(Filippo Garisendi＝48 ﾒｰﾀｰ)の塔の二本です。この他にも街中でよく見ると昔は塔であったと思われる建物があります。
〇聖堂

◇聖ドメニコ聖堂　　San Dominico
街の南端にあるドメニコ派の総本山です。1218 年にドメニコ（Dominic Guzman）がボローニャの街に入り、ここを拠点として布教活動を始め、1221 年に死去しています。
聖堂前の広場と聖堂裏手には聖ドメニコの立像が見られます。
聖堂は 1228 年から 40 年に掛けて建設されましたが、当初は聖職者用の建物と一般信徒用の建物は別棟でした。正面扉口上には大きな薔薇窓があり、ティンパヌムには聖ドメニコが描かれています。

聖堂内は三廊式で、中央内陣には寄木細工で作成された聖歌隊席が半円形に並び正面にはバルトロメオ・チェジ(Bartolomeo Cesi)作の「東方三王の礼拝」が描かれています。
右側廊には礼拝堂が並んでいますが、中でもひときわ豪華なのが聖ドメニコの墓がある礼拝堂です。天蓋にはグイド・レーニ（Guido Reni）作、の「聖ドメニコの栄光」のフレスコ画が描かれ、ニコラ・ピサーノ(Nicola Pisano)1267 年作、の聖ドメニコの生涯を刻んだ彫刻が棺の周囲を飾っています。
棺の上にはニッコロ・ダ・バリ(Niccolo da Bari)、別名ニッコロ・デラルカ（Niccolo dell’Arca)による、最上部に父なる神が、その下にキリストと天使、その下に福音書を持つ聖ドメニコと聖フロリアーノ(San Floriano)像などが並んでいます。

ミケランジェロの作品とされているのは、ボローニャの守護聖人の聖ペトローニオ(San Petronio)像と聖プロコロ（San Procolo）像、それに右前に膝まづき蝋燭立を持つ天使像です。
聖ドメニコ礼拝堂に並んで、聖カテリーナ礼拝堂には 16 世紀のフィリッピノ・リッピ（Filippino Lippi）作のフレスコ画、「聖カテリーナの結婚」(Matrimonio Mistico di Santa

Caterina)があります。
左翼廊にあるジュンタ・ピサーノ(Giunta Pisano)作「キリストの磔刑」の板絵はイタリア-ゴティックを代表する作品で、13 世紀から 14 世紀に掛けて制作されたキリストの磔刑図の原形となった作品です。

◇聖サルバトーレ聖堂　　San Salvatore
聖堂の正面はトデスキーニ(Todeschini)の設計で、扉口の上には天使が腰かけて来訪者を迎えています。正面は二層に分かれ、上層に聖マタイと聖マルコ、下層に聖ルカと聖ヨハネの福音書記者の像が壁龕に収まっています。屋根の中央にはキリストと両脇に二体の聖人の銅像が載っています。1149 年に建設され、1605 年に改築されています。

聖堂内は単廊式で、中央主祭壇の右側にはヴィターレが 13 世紀に制作した衝立式祭壇画があり、聖母子と聖人が描かれています。
ボローニャ派の画家グエルチーノ（通称＝Il Guercino、本名＝Giovanni Francesco Barbieri）の墓があります。聖堂は通常閉鎖されており、聖堂の中が見られる機会はめったにありません。
◇サンタマリア・デイ・セルヴィ聖堂　　Santa Maria dei Servi
1393年に建設されており、15世紀から16世紀に拡張されて現在の長さになっています。

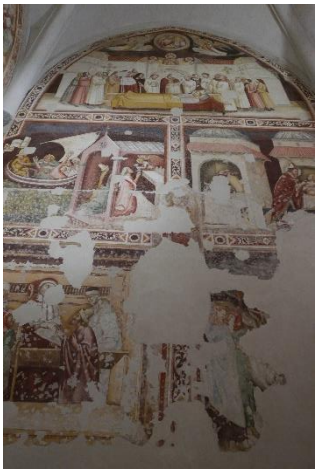
聖堂は西面しており、前には五連式アーチの柱廊があることで、ゴティック様式の聖堂にもかかわらず、初期キリスト教時代の聖堂建築を彷彿とさせる造りになっています。中央の扉口の上には丸窓があります。煉瓦積みで化粧板を止める数多くの穴が見えています。
聖堂内は三廊式で、中央主祭壇にはキリストが聖母と洗礼者聖ヨハネの中央に立ち、脇には聖ピエトロと聖ペテロ像の彫像が置かれています。内陣には馬蹄形に聖歌隊席がめぐらされ、奥の周回路の正面には 16 世紀作成のキリストの磔刑像、右に聖グレゴリオのミサでの奇跡、左にはチマブーエ（Cimabue）作、「玉座の聖母子と大天使」の衝立が見られます。
ヴィターレ作「聖母の生涯と聖マグダレのマリア」には豪華な装飾が施されています。
右側廊の 7 番目にはボローニャ派のダルマシオ（Lippo di Dalmasio）14 世紀作、「聖カテリーナの神秘の結婚」、の衝立があります。

◇聖コロンバーノとサンタマリア・デッロラツォーネ聖堂　　San Colombano e Santa Maria dell’Orazione
12 世紀に建設されたロマネスク様式の聖堂です。正面には最後の審判と思われるフレス

コ画が描かれていますが、剥離が進んでおりよくわかりません。16世紀にはサンタマリア・デッロラツォーネ聖堂となっています。
地下聖堂にはカラッチ、アルバーニ（F. Albani)、グイド・レーニ（G. Reni)、マッサリ（L. Massari)、ドメニキーノ（Domenichino）などボローニャ派の画家のフレスコ画が見られます。

◇サンタマリア・マッダレーナ聖堂　　Santa Maria Maddalena
11 世紀に存在していた聖堂を 16 世紀に改築しており、その際に聖堂前の三連式アーチの柱廊が追加されています。聖堂内は単廊式の小さな聖堂で、ボローニャ派のダルマシオ（Lippo di Dalmasio）作の、聖母画がかけられています。
〇ボローニャ派
大学の街として開放的な文化風土を基礎に、書籍は挿絵で飾られ、聖堂はフレスコ画と祭壇画で飾られました。ジョットの重厚さ、とシエナ派の雅び、から離れ、14 紀の絵画で特別の地位を占めることになり、多くの画家が排出されています。
16 世紀から 17 世紀にかけて活躍したカラッチ（Annibale Carracci）以降はバロック様式の画家が輩出しています。

〇ヴィターレ・ダ・ボローニャ（Vitale da Bologna）(1309-1360)
エミリア・ロマーニャを代表する画家。ボローニャ派の開祖。
初期の作品①では熱情に溢れる表現が見られますが、シエナ派との接触により、②の聖母の表情に見られる洗練された宮廷芸術の域に到達しています。その後多くの弟子を抱えた工房を持ち、③に見られるような、大規模な作品を制作しています。
San Giorgio e il Drago　1330　Pinacoteca Nazionale　①
Madonna dei Denti　1345　Museo Civico Davia Bargellini　②
Storia da San Nicolo 1349　Udine Duomo　③



カステルフランコ・ヴェネト　：
Castelfranco Veneto
ジョルジョーネ
Giorgione Barbarelli

パドヴァ(Padova)から鉄道で北に向かうと 30 分程で到着します。トレヴィゾ(Treviso)から西に向かうと、同じく 30 分程で到着します。ヴェネチアからは、トレヴィゾ経由で 1 時間かかります。

旧市街は完全な城壁都市です。
12 世紀から 13 世紀の北イタリアでは、都市がローマ教皇派 (Guelfi)と神聖ローマ帝国皇帝派(Ghibellini)に分かれて抗争が続いていました。どちらに与するかは宗教的な面もありますが、経済的な繋がりも強く、地域での覇権を争って街の間で合従連衡が盛んにおこなわれていました。
トレヴィゾは有力なカミーノ（Camino）家の下で教皇派でしたが、パドヴァは共和制下でもカッラーラ（Carrara）家の下でも神聖ローマ帝国皇帝派でした。
街の歴史は、1218 年に、トレヴィゾが西からの攻撃に対処する目的で、出城を建設したことに始まります。
その後 13 世紀半ばには一時、北に在るバッサーノ・デ・グラッパの領主であるエッツェリーノ 3 世（Ezzelino III da Romano）に占領されますが、14 世紀にはより強力な西のヴェローナ（Verona）の領主のカングランデ 1 世（Cangrande I della Scala）に占領されるなど、トレヴィゾの街を守るための戦闘を余儀なくされています。14 世紀半ばになると、トレヴィソとともに、より強大なヴェネチア共和国の支配下に入ります。

一辺が 250 メーターほどのほぼ正方形の城壁が取り囲む小さな城壁都市で、外堀は幅広い水濠でしたが、現在では周囲にわずかばかりの幅で残るのみで、芝生の緑地帯になっています。
東門は方形の高い時計塔（Torre Civico）が聳えています。外側にはヴェネチアの支配下にあったことを示す、聖マルコの表象の、有羽のライオンの浮彫が付いています。西にも城門の跡がありますが、北門は撤去されています。南には門がなく、大聖堂が城壁の一部を

構成していたと思われます。
城内は条理制がとられ、東西の門をフランチェスコ通り（Via Francesco Maria Preti）が繋ぎ、中央に在る聖リベラーレ広場（Piazza San Liberale）からは北に向かいガリバルディ通りがあります。南に大聖堂、北西の端に城、中央に市庁舎があり、わかり易い街並みになっています。

〇大聖堂　（Santa Maria Assunta e San Liberale）
城内の南側城壁の中央に位置しています。東門からフランチェスコ通りを中央まで進むと右手に市庁舎があり、左手には聖リベラーレ広場があります。広場の前には柵に沿って左右に三体ずつ石像が並んでおり、その奥に大聖堂があります。
18 世紀初めにそれまであったロマネスク様式のサンタマリア・アッスンタ聖堂を改築して建設されています。
聖堂正面は四本の円柱が三角形の破風を支え、屋根の頂点に聖母が、両端には聖ヨハネと聖リベラーレの像が載り、一段下がって両側に天使像が見えます。
聖リベラーレは 4 世紀の殉教者で、トレヴィゾの街の守護聖人です。トレヴィゾがこの城塞都市を建設する際にこの聖人に奉献して大聖堂を建立しています。
聖堂内はラテン十字形で、両脇に礼拝堂が並んでいます。中央主祭壇には、ポンキーニ（Gianbattista Ponchini)作、「リンボ(孩所)への降下（Discesa dal Limbo)」が飾られています。右袖廊には大理石製の大きな聖母被昇天の彫像が置かれています。
側壁に並ぶ礼拝堂には、ザンキ（Antonio Zanchi）作の「聖アンドレアの処刑」、ベッカルッツィ（Francesco Beccaruzzi）作「聖アンナとザッカイア」、パルマ（Palma il Giovane）作「聖セバンチャンの処刑」などの絵画が掛けられています。
この街は、ルネサンスを代表する画家のジョルジョーネの生誕の地です。
代表作の一つ、「嵐」（La Tempesta）1508 年、は現在ヴェネチアのアカデミア博物館に収容されていますが、この聖堂にも名画が収められています。
右手奥の独立した礼拝堂に、ジョルジョーネ 1503 年作の「聖母子と聖フランチェスコと聖ニカイオ（Nicaio)」の祭壇画が有ります。21 世紀になって画家の生地に戻ってきた名画です。現在では単に「カステルフランコの祭壇画（Pala di Castelfranco)」と呼ばれています。背景に風景画を取り入れた画期的な画法と言われています。

この絵を見るためだけでも、訪問する価値はあります。なお、

大聖堂の左手奥にジョルジョーネの生家が在り、美術館（Museo casa Giorgione）になっています。

〇ジョルジョーネ（Giorgione Barbarelli）(1477-1510)
ルネサンス盛期の画家。
ジョヴァンニ・ベリーニの下で修業し、ティツィアーノ、パルマ・ヴェッキオ、セバスティアーノ・デル・ピオンボ、などのヴェネチア派の第一人者となっています。短命であったために、作品は限定的です。
主要な作品
「モーゼの火の試練」1500 年：フィレンツェ、ウフィツィ美術館。
「ユディト」1504 年：サンクトペテルスブルグ、エルミタージュ美術館。
「ラウラ」1506 年：ウィーン、美術史美術館。
「矢を持つ青年」1506 年：ウィーン、美術史美術館。
「三人の哲学者」1507 年：ウィーン、美術史美術館。
「眠れるヴィーナス」1510 年：ドレスデン、アルテ・マイスター美術館。

キヴァッソ　：
Chivasso

デフェンデンテ・フェッラーリ
Defendente Ferrari

ミラノから電車で１時間半ほどの所にある街です。そのまま 30 分ほど進むとトリノに到着します。
北からのオルコ川がポー川に合流する地点に発達した街で、交通の要所として発達してきました。
843 年の史料に、4 世紀のローマ帝国時代にはクラヴァシウム（Clavasium）と呼ばれていたことが出ています。その後、12 世紀末にモンフェラート（Monferrato）侯が築城していますが、現在では城の一部の八角形の塔（28 メーター有ります）が大聖堂前に残っているだけです。15 世紀にはサヴォイア家の所領となっています。
駅は街の北に在り、ポー川に向かって南に街が開けています
この街は福者アンジェロ・カルレッティ（Beato Angelo Carletti）の生地でもあります。1411 年生まれのカルレッティはボローニャ大学で法学を学んだ後、いったん宮廷に奉仕しますが、23 歳で一切を放棄し聖職者となっています。フランチェスコ派の聖職者となって、1480 年にはオスマントルコがオーストリアに侵攻した際に、ローマ教皇より十字軍の提唱に派遣されています。1495 年にクーネオ（Cuneo）で死去しています。街の中心地に像があります。

〇聖堂
◇大聖堂　　（Santa Maria Assunta）
1415 年にゴティック様式で建設され 1487 年に完成しています。その後数次にわたり改修を重ねてきています。
聖堂前の広場から聖堂全体を見渡すことができます。右手に鐘を載せた矩形の時計台があり、聖堂の正面は夥しい数の浮彫で飾られています。

扉口の上のティンパヌムには剥離したフレスコ画の中央に聖母子の浮彫があり、その上にはキリストの立像があり、扉口の両脇には二人が六層になって合計 12 人ずつの旧約聖書からの預言者と新約聖書からの使徒が並んでいます。周りは天使や花綱模様で飾られ、正面上の丸窓の周囲をよく見ると顔が囲んでいます。

聖堂内は三廊式で、中央主祭壇のキボリウムの上には二体の天使に支えられた「聖母被昇天」の大きな浮彫像が飾られ、アプシスの半円蓋には多くの天使がフレスコ画で描かれています。身廊は色大理石の柱が並び、イオニア式の柱頭飾りが載っています。中央左手に説教壇があります。天井には聖人、天使が描かれている、華やかな聖堂です。

等身大で彩色を施された八体から構成されるテラコッタ製の「キリストの哀悼」は 15 世紀の制作です。

右側廊の二番目の祭壇にデフェンデンテ・フェッラーリ作の「キリストの十字架降下」があります。

○　デフェンデンテ・フェッラーリ　（Defendente Ferrari）　(1480-1540)

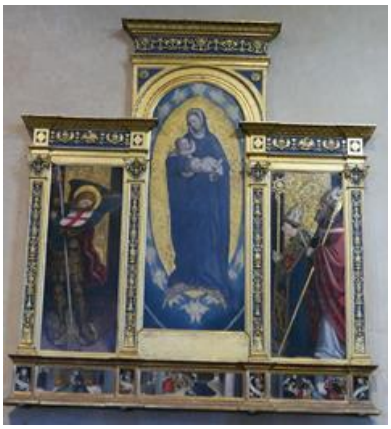
キヴァッソの生まれ。

16 世紀初頭にキヴァッソに移住してきた、スパンゾッティ（Giovanni Martino Spanzotti）について修業しています。

写本のような精密技法で描く手法で、特に衝立型の祭壇画や三面祭壇画を多く手掛けています。ただし、作成当時の聖堂に保存されている作品は少なく、多くはトレノの美術館やミラノのブレラ美術館等に収納されています。

△キヴァッソの大聖堂にある「キリストの十字架降下」では背景にゴルゴダの丘が描かれています。キリストは十字架から降下されていますが、二人の盗賊が磔刑にされたままの状態で描かれています。なお、額は制作されたときのままの状態で、保存されています。

△アヴィリアーノ（Avigliano）にある大天使聖ミケーレ聖堂（Sacra di San Michele）の祭壇にある、「三面祭壇画」1507 年では、中央に聖母子、左に大天使聖ミケーレ、右に聖ヴィンチェンツッォ（San Giovanni Vincenzo)が描かれ、背景には金箔が押されています。ゴティックからルネサンスに移行する過渡期の作品です。後には、フランドルの画家からの影響を受け、暗闇の中に光が差し込む様な表現が見られるようになります。



コネリアーノ　：
Conegliano
チーマ
Giovanni Battista Cima

ヴェネト（Veneto）州の街です。イタリアの北東に位置しています。
ヴェネチアから鉄道を利用して北に向かい1時間ほどで着きます。トレヴィゾ(Treviso)からは30分かかりません。アルプスに向かって北へ伸びる鉄道とアドリア海の奥深く、西へ向かう鉄道の分岐点になっている街です。

旧市街は駅前から山に向かい北側に展開しています。駅前からカルドゥッチ通り（Viale Giosue Carducci）を北に進むと、東西に走るエマニュエーレ2世通り（Corso Vittore Emanuele II）に出ます。直進して階段を上がり、建屋の下を通り抜けると9月20日通り（Via XX Settembre）に出ます。その北側が街の中心にあるチーマ広場（Piazza Giovanni Battista Cima）です。正面には立派な造りの劇場（Teatro Accademia）があり、広場の右手東側には市庁舎があります。
この地方は非常に質の高い発泡性の白ワインを産することで有名で、プロセッコ・ディ・コネリアーノはDOCワインです。
街の背景にはドロミテ公園（Parco Nazionale delle Dolomiti Bellunesi）を控えて山が迫り、季節感が感じられる落ち着いた街です。絵画を鑑賞して、ワインを堪能出来る最高の街です。

〇城　　(Castello di Conegliano)
街の北に位置するジャーノ（Giano）山の頂上に在ります。
11世紀から12世紀にかけてトレヴィゾの北の出城として建設されています。12世紀から13世紀にかけて、北イタリアでは多くの都市が合従連衡を重ね、教皇派と神聖ローマ帝国側に分かれて抗争を続けていました。
現在では良く整備された公園になっており、塔を中心に市立博物館になっており、チーマやパルマの絵画が収蔵されています。なお、チーマの絵画に描かれる山城はこの城を

モデルにしています。

〇大聖堂　　（Duomo）　サンタマリア・アヌンツィアータ　（Santa Maria Annunziata）
街の中心のチーマ広場から、西に向かって 9 月 20 日通りを進むと、通りの両側はポルティコになっており、店が並んでいます。聖堂は通りに沿って南北に広がっており、聖堂前には広場もなく、両脇にも建屋が並んでいますので、聖堂の正面も後陣も見えません。聖堂の側壁に額の中に文字が並ぶフレスコ画が数枚あるだけで絵画も特段の飾りも有りませんので、気が付かずに通り過ぎてしまう恐れがあります。
1354 年に建設された当時は、山の上の城の内に在る聖オルソラ聖堂（Sant'Orsola）に司教座が在りましたが、敷地内が狭く拡張できないことから、1756 年に司教座をこの聖堂に移しています。

聖堂内は三廊式で、中央主祭壇にはチーマが 1492 年に制作した、「玉座の聖母子と左側に洗礼者聖ヨハネ、聖ニコラ、聖カテリーナ、右側に聖アポロニカ、聖フランチェスコ、聖ピエトロ」の大作が掲げられています。
なお、残念ながら聖堂内は十分な採光は取られておらず、絵画を堪能するのは困難ですが、絵画のためには良いことかもしれません。

〇チーマ　　（Giovanni Battista Cima）
コネリアーノが生んだ偉大なルネサンス時代の画家です。通常はコネリアーノのチーマ（Cima da Conegliano）と呼ばれています。
1459（1460 年）の生まれで、20 代後半にはヴェネチアに出て画家のバルトロメオ・モンターニャ(Bartolomeo Montagna：1450 年～1523 年）の弟子となっていたと推定されます。モンターニャはジョバンニ・ベリーニ（Giovanni Bellini)の影響を受け、ヴェネチア、パドヴァなどで活躍しましたが、特にヴィチェンツァ（Vicenza)で活動した画家で、聖母子画を多く手掛けています。モンターニャの作品は国立西洋美術館で見ることができます。
チーマは 1492 年には画家として独立していたと思われ、聖母子画や祭壇画など宗教関連の絵を多く描いています。特に聖母子画では師のモンターニャからの影響を受けただけでなく、その構図や色彩は当時のヴェネチア画壇の第一人者であった、ジョバンニ・

ベリーニから多大な影響を受けていることが伺われます。
聖母子画の背景には、ジョバンニ・ベリーニの作品でも見られるように、戸外の風景が描かれることが多くありますが、聖堂内に飾られる祭壇画にもかかわらず、背景が室内ではなく、自然の風景が描かれるのは、チーマの特徴の一つと言えます。
チーマは絵画の背景に風景を描くことを確立させた画家と言われていますが、その背景に描かれている山や城は故郷のコネリアーノの風景だと言われます。チーマの絵画を見るとその城の形態が良く似ていることが分かります。

ﾓﾝﾀｰﾆｬ：国立西洋美術館所蔵

空想的な風景を描くことなく、現実に在る、特定できる風景を書き込んだ画家として、風景画の先駆け者としてその影響は大きなものがあります。
1516 年頃には生まれ故郷のコネリアーノに戻り、1518 年頃に没したとされます。
同時代の画家としては、イタリアでは、アンドレア・マンテーニャ（Andrea Mantegna : 1436 年-1506 年)。ヴィットーレ・カルパッチョ（Vittore Carpaccio：1465 年-1525 年)。ドイツでは、アルブレヒト・デューラー（Albrecht Durer　: 1471 年-1528 年)がいます。
チーマの生家はチーマ広場の左手のチーマ通りを進むと右側に在り、現在は博物館になっています。この偉大な画家を街が誇りに思っていることが良くわかります。

◇チーマの主な作品
①Battesimo di Cristo (キリストの洗礼)：San Giovanni in Bragora,Venezia 1492 年
②The Virgin and Child　（聖母子)：National Gallery , Bologna　1495 年
③The Virgin and Child　（聖母子)：National Gallery , London　1496-1499 年
④The Virgin and Child　（聖母子)：　National Gallery, London　1505 年頃
⑤Madonna col Bambino tra i Santi Michele Arcangelo e Andrea　(聖母子と大天使ミケーレと聖アンドレ）：Galleria Nazionale di Parma　　（元は Santa Maria Annunziata 聖堂）1498-1500 年
⑥Endimione Dormiente　（エンディミリオンの眠り)：Galleria Nazionale di Parma,1505-1510 年。
⑦Pala Montini　（モンティーニの祭壇画）　：Galleria Nazionale di Parma(元は大聖堂）1507 年
⑧Sant’ Erena e Costantino ai lati della Croce（聖エレナとコンスタンティン皇帝と聖十字架)：　San Giovanni in Bragora,1501-1503 年

⑨Sacra Conversazione　（聖母子と聖人）：　Pinacoteca di Brera,Milano 1490 年
⑩Santi Pietro Martier e Nicolo e Benedict （殉教者聖ピエトロと聖ニコロと聖ベネディクト）　：Pinacoteca di Brera ,Milano　1504 年

① ② ③ ④
⑤ ⑥ ⑦ ⑧
⑨ ⑩

Cremona　：
クレモナ
Il Pordenone　（ポルデノーネ）

ミラノから電車で東に向かい、2 時間弱で着きます。
落ち着いた、洗練された街です。
この小さな街には驚くほど多くの聖堂があります。中には完全に廃墟となっている聖堂も有りますが、地図によると 20 余の聖堂が挙げられています。
街の中心にある大聖堂は街の規模と比べても異常と言える程の大きさです。巨大な大聖堂と、隣接する見上げるばかりの鐘楼とを一枚の写真に収めるのは困難です。
大聖堂の前には、コムーネ広場（Piazza del Comune）があり、午前中は花屋さんから日用雑貨、衣料、野菜、魚、チーズを扱う店などの出店でにぎわいを見せています。広場は多くの人で埋め尽くされますが、この広場の端まで行っても大聖堂を十分に見渡すことはできません。

またこの街はヴァイオリンの代名詞にもなっているストラディヴァリの生まれた街で、博物館（Museo Stradivariano）もこの広場に面した所にあります。
街の建設は紀元 3 世紀のローマ帝国時代まで遡ることができます。11 世紀になると神聖ローマ帝国皇帝のバルバロッサ（Barbarossa）やフェデリコ 2 世（Federico II）の下で、ファスチアン織で財を成し、街は急速に発展しました。

その後 1411 年 10 月 25 日に、クレモナ公のマリア・ヴィスコンティ（Bianca Maria Visconti）がミラノ公のフランチェスコ・スフォルツァ（Francesco Sforza）に嫁ぐとき、クレモナの街は花嫁の持参金とされ、ルネサンスの華やかな影響を受けることとなります。16 世紀にスフォルツァ家が絶えるとクレモナはスペインの支配下となりますが、1707 年にオーストリアの女帝、マリア・テレジア（Maria Teresa）の下で現在に及ぶ繁栄を取り戻したのです。

〇聖堂

◇大聖堂　Duomo

街の中心のコムーネ広場にあります。1107 年に建設が始められましたが、10 年後の 1117 年の大地震で崩壊し、再建されて一応 1190 年に完成を見ました。その後も建設は続けられ、正面を多彩色の大理石で覆い、北と南の扉口が完成したのは 15 世紀になってからです。

正面には大きな薔薇窓があり、その上にカンピオーネ派が作成した 4 人の大預言者の立像があります。フリーズには 13 世紀初めにアンテラミ派による十二カ月を表す浮彫があり、二頭のライオンが支える柱廊の上には両脇に聖オモボノ（Sant'Omobono）と聖イメリオ（Sant'Imerio）を従えた聖母子像が 14 世紀になってロマーノ（Marco Romano）によって制作されています。

正面の柱には左側にエレミア（Jeremiah）とイザイア(Isaiah)の、右側にはダニエル（Daniel）とエゼキエル（Ezekiel）の 4 人の預言者の浮彫があります。

聖堂内は三廊式の広い大聖堂で、多くのフレスコ画で飾られています。

正面の扉口を入って見返るとポルデノーネ 1521 年作、の「キリストの磔刑」を描いた大きなフレスコ画があります。ゴルゴダの丘では、キリストと二人の盗賊が磔刑に処せられており、左下には崩れ落ちる聖母と支える聖ヨハネが見られます。周囲には多くの人物と乗馬している兵士が描かれていますが、この絵の特異な点は、画面の中央でひときわ大きく描かれている百人隊長です。キリストの磔刑図を構図にして、百人隊長を描いたともいえる構図になっています。

この左下にはベルナルディーノ（Bernardino　Gatti）1529 年作、の「キリストの復活」があります。

アプシスにボッカチオ（Boccaccio Boccaccini）1506 年作の「キリストとクレモナの守護聖人」が描かれ、キリストの周囲には四大福音書記者が、脇には守護聖人が侍しています。身廊の両側には 16 世紀に多くの画家により描かれた「キリストの公生涯」と「聖母伝」の大きなフレスコ画が何枚も続いています。その中にはカンピ（Campi）やマロッソ（Malosso）などのクレモナ派のフレスコ画もあります。

なお、クレモナの街の守護聖人の聖オモボノは地下聖堂に埋葬されています。

大聖堂の脇には 13 世紀に建設された、トラッツォ（Torrazzo）と呼ばれる鐘楼が聳え立

ち、その高さは 110 メーターでイタリア第一の高さです。500 段の階段を登ると頂上に到着します。上部には二重、三重のマリオンで飾られた窓が並んでいます。15 世紀になって大聖堂に直結されましたが、塔が何時、何の目的で造られたかは正確には判っていません。

◇洗礼堂　Battistero

ドゥオーモのあるコムーネ広場にあります。1167 年建立の煉瓦造りで八角形をしています。直径は 22.50 メーターで、高さは 34 メーター有ります。

当初扉口は 3 箇所ありましたが、16 世紀に改修され、現在では広場に面した北向きの一箇所となっています。扉口には 2 頭のライオンが柱廊の円柱を支えています。

洗礼堂の内部は三層造りで、上層の二壁面には二連式のアーチが三箇並び、その中央の窓からと天頂から光が降り注いでいます。土台から天井まで赤い煉瓦で造られており、周囲を見上げても絵画が無いだけに荘厳な印象を与えます。

中央には 1531 年にトロッティ(Lorenzo Trotti)により作成された八角形の赤大理石の洗礼盤があり、上には金箔のキリスト像が載っています。

正面の祭壇にはクレモナ派の描いたフレスコ画の前に「磔刑のキリスト像」があり、左側の祭壇には 17 世紀のジャコモ（Giacomo Bertesi）作の「嘆きの聖母」が、右の祭壇には 16 世紀に奉納された聖ビアージョ（St.Biagio）の像を見ることができます。

〇ポルデノーネ　　（Giovanni Antonio de'Sacchis）が正式名。　(1483-1539)

通称、(Il Pordenone)

イタリア北部の街のポルドーネ（Pordone ）で生まれたことから通称として地名で呼ばれています。

ルネサンス後期のマニュエリスト画家です。

正規の画家について修業しておらず、主として建屋の外壁などの装飾を手掛けていたようです。そのために建物と共に消滅してしまったり、風雨などによる経年劣化で、作品は多くは残っていません。

ヴェネチア派に属する画家のひとりで、ティティアン（Tiziano Vecceli）と共にベリーニ（Giovanni Bellini ）の下で修業したと言われていますが、確かではありません。

地元のポルデノーネ市の他、ヴェネチアとその周辺地区で活動しています。

ヴァザーリの「画家列伝」によると、制作時間が短く、素早く作品を完成させるのが上手かったようです。

主な作品

① ポルデノーネ市の大聖堂の右側廊の最初の礼拝堂にある「聖母と聖人」(1515)

② ポルデノーネ市の大聖堂の身廊の柱に描かれた聖ロッコ(1506)は画家自身をモデルにしていると言われています。

③ チヴィダーレ・デル・フリウリ（Cividale del Friuli）の大聖堂美術館収容の「我に触れるな」

ミラノのブレラ（Brera）美術館収容の「変容」(1515)。
ピアチェンツァの聖母聖堂（Santa Maria di Campagna)のドームなどを手掛けています。

①

②

③

ファエンツァ：
Faenza

フェリチェ・ジャニ
Felice Giani

街の歴史は古く、ローマ時代より前のケルトの時代からあったと記録されています。紀元前 187 年に現在のピアチェンツァ（Piacenza ）からポー川（Po）に沿ってアドリア海のリミニ（Rimini)までほぼ直線状にエミリア街道（Aemilia)が開かれます。この街道に沿ってボローニャ（Bologna）やモデナ（Modena ）などの街が設営されて行きましたが、ファエンツァもこの街道沿いに発展した街の一つです。
6 世紀にはビザンティン帝国軍が東ゴートにこの街の近くで敗北を喫しています。

中世時代の初期は北イタリアの各地で見られた、ローマ教皇（Guelphs）に与する側と神聖ローマ帝国皇帝（Ghibellines）に与する派との争いに巻き込まれて混乱していましたが、1313 年に教皇派のフランシス（Francis Manfredi）が最初のファエンツァの領主となった以降、マンフレディ家の元で繁栄しています。15 世紀半ばにカルロ 2 世（Carlo II）の時代に繁栄は頂点に達しましたが、その後内紛が起き、11 代目のアストッレ 3 世（Astorre III Manfredi）はボルジア（Cesare Borgia）により 1501 年に暗殺され、12 代目のアストッレ 4 世（Astorre IV Manfredi）はボルジアの支配下に領主として存続しましたが、遂に 1503 年に教皇領に没収されています。

六角形をした城壁都市で、現在でも城壁の一部が見られます。
ミラノから特急に乗ると約 1 時間半で、ボローニャ（Bologna）に着きます。急行では 3 時間かかります。
ボローニャからは、ローカル線に乗り換えて更に 1 時間ほどかかります。
駅から城壁内の旧市街に向かって南下して城壁の中に入ると、世界に誇る陶磁器博物館(M.I.C.=Museo Internazionale delle Ceramiche）があります。

中世以来、陶磁器の街として知られ、街の名前の Faenza は各国語で陶器を意味する単語の語源（例：英語の Faience)。にもなっています。日本語ではフランス語からのファイアンス焼、と呼ばれている錫釉陶器を指します。

〇ミルセッティ宮（Palazzo Milzetti）

国立新古典美術博物館（Museo Nazionale dell'eta Neoclasicca in Romagna）現在では博物館になっていますが、元は、ミルセッティ家（Milzetti）の自宅でした。

ニコラ・ミルセッティ（Nicola Milzetti）伯爵は、1792 年に 10 年前の地震で被害を受けた屋敷を統一して修復する目的で、ピストッキ（Giuseppe Pistocchi）に建築設計を依頼し、内装はジャニ（Felice Giani）に依頼しました。1802 年から内装に着手し、1805 年に完成しています。

その後、建物はミルセッティ家から離れて多くの人手に渡り、現在では博物館になっています。

通りに面した建物は三階建で、規則正しく並んだ窓は張り出した石積みの窓枠で飾られています。

内装の施された部屋は二階に在ります。階段を上がると、＜ハンニバルの誓（Oath of Hannibal）の間＞、＜アキレス（Achilles）の大広間＞、伝説上のローマの哲人王の物語が描かれた＜ヌマ・ポンピリウス（Numa Pompilius）の間＞、＜ユリシーズ（Ulysses）の間＞、＜夫人の寝室＞と一列に並んでいます。

どの部屋もフレスコ画で覆いつくされており、見応えがあります。

その反対側に、正方形の部屋をコリント式柱頭飾りの付いた円柱が二本ずつ隅に立ち、八角形の内屋根を支える豪華な＜アポロ神殿＞と呼ばれる大広間が在ります。天井には太陽の馬車を導くアポロが描かれ、周囲の 16 の壁面には黄道十二宮と四季が描かれています。これらのフレスコ画はジャニの最大傑作とされています。

〇フェリチェ・ジャニ（Felice Giani）（1758-1823）
新古典主義の画家。ギリシャ神話に主題を取った幻想的な絵画を得意としています。

ミラノから南西に位置するアレッサンドリア（Alessandria）に近い寒村のサンセバスティアノ・クローネ（San Sebastiano Curone）で生まれ。落馬事故で死去しています。
パヴィア（Pavia）で画家として出発し、ボローニャ（Bologna)、次いでローマで修業しています。ファエンツァには 1796 年に来ており、ツァウリ（Giuseppe Zauli）（1763-1822）と組んで、美術学校（Scuola di Disegno e Plastica）を開設し、後進の指導に当たっています。その後パリ、ローマ、イモラ（Imola）など各地を変遷し、制作活動をしました。
ファエンツァで見られる作例
◇ラデルキ宮（Palazzo Laderchi）では、スタッコを得意とする（Antonio Trentanova ）と組んで大広間の天井に「愛と霊」(Love and Psyche)を描いています。1797 年。
◇コンティ宮（Palazzo Conti）は、ピストッキが設計しジャニが内装を担当しています。1802 年。
◇ゲッシ宮（Palazzo Gessi）1813 年。　モーリ宮（Palazzo Morri）1816 年。
◇キャヴィナ宮（Palazzo Cavina）1816 年。
◇パソリーニ宮（Palazzo Pasolini）ではピストッキと組んでいます。1818 年。
その他、ローマのアルティエリ宮（Palazzo Altieri)やフォルリ（Forli）のマンツォーニ宮殿（Palazzo Manzoni）にもフレスコ画を残しています。

フォンタネラート：
Fontanellato
パルミジャニーノ
Parmigianino

エミリアロマーニャ（Emilia Romagna）にある村です。
ピアチェンツァ（Piacenza）からは約 70 キロメーター東南で、パルマ（Parma）からは北西約 20 キロメーターのところにあります。

公共交通機関はバスしか有りません。パルマのバスターミナルから 50 分ほどかかります。フィデンツァ（Fidenza）からのバスの便もありますが、本数が少ないので、パルマからの訪問をお勧めします。
村には二か所バス停があります。西のバス停（Partini）で降りて、ジョゼッペ・マッジィーニ通り（Via Giuseppe Mazzini ）を進み、城壁の門（Porta d'ingresso a Fontanellato ）をくぐって歴史地区に入ることになります。もう一か所の東のバス停（Santuario）はロザリオの聖母修道院前にあります。
フォンタネラート村は、＜イタリアの美しい村＞として認定されていますが、誠に静かで清潔な村です。

〇城
村の中心にサンヴィターレ城（Rocca Sanvitale＝Castello di Fontanellato ）があります。城は５０メーター四方のほぼ正方形をしており、周囲には現在でも水濠がめぐらされています。水濠を囲む道で城を一周することができます。
東面の中央に入城門があり、門の上にはいかつい塔が聳えています。城壁の四隅に建つ櫓は東北、東南、西南の三か所には円柱形の櫓が建ち、西北には矩形の櫓が建っています。南面と西面の櫓の間はイタリア独特の山羊の角の形をした矢来壁が連なっています。

北面はアーチ型の柱でポルティコ状になっており、奥の壁にはフレスコ画が描かれていることが水濠を挟んでも見え、城主の居住空間であったことが分かります。

城主のサンヴィターレ家は 12 世紀からの古い家柄で、16 世紀以降はパルマ公の家臣として伯爵を名乗り、一族は城を数か所構えていました。このフォンタネラートの城には一族が 1951 年まで城主として居住していました。
現在では村役場となり、公共の施設や、博物館となって開放されています。
16 世紀初め、当時の城主のジャン・ガレッツォ（Gian Galeazzo Sanvitale）伯は、フランス王とのつながりが強く、フランス王の傭兵隊長として活躍しています。伯は、パルミジャニーノ（Parmigianino）を招聘して城の一室に、ギリシャ神話の女神ダイアナとアッテオーネ（Diana e Atteone）の物語を描かせています。
アッテオーネが森に狩猟に出かけると、女神ダイアナが水浴している場面に遭遇してしまいます。女神はアッテオーネが目撃したことを他言させないために、顔に水をかけて頭を鹿に変身させてしまいます。その結果アッテオーネは自身の狩猟犬に殺されたという残酷な物語です。

この部屋は西面の一番北にあり、矩形の櫓の南隣に当たります。ガレッツォ夫人（Paola Gonzaga）の寝室とされた小さな部屋です。天井一面に緑色を主体にした色彩で描かれており、落ち着いた環境になっています。
鮮やかな色彩が残っており、このフレスコ画を見るためだけでも訪問する価値があります。
なお、入城の時間は限定されており、しかもガイド付きの見学に限られています。また撮影は禁止されています。
　出展：The Great Master of Italian Art

〇パルミジャニーノ　　（Parmigianino）

パルミジャニーノの正式名はジロラモ・フランチェスコ・マリア・マッツォーラ（Girolamo Francesco Maria Mazzora）　（1503－1540）と言います。
パルミジャニーノとは、『パルマの小っちゃい奴』、という綽名です。ルネサンス時代の画家列伝を書いたヴァザーリ（Vazari）によれば、ラファエッロの再来ともてはやされた画家でした。ローマでは教皇クレメント 7 世の保

護を受け、ボローニャ経由で、パルマに戻り、サンタマリア・デラ・ステッカータ聖堂（Santa Maria della Steccata）でフレスコ画を描くなど活躍しています。
武具の前に端正な面立ちで正面を見つめる城主のガレッツォ伯の肖像画は城で描かれました。

現在ではナポリの美術館に収容されています。パルミジャニーノの傑作の一つです。

主要な作品
ロンドン国立美術館：Mystic Marriage of Saint Catherina
パルマ美術館：Schiava Turca　①
ウィフィツ美術館：Madona dal Collo Lungo　　②
バルディにある、サンタマリア・デレ・グラツィエ聖堂（Santa Maria delle Grazie）のバルディ祭壇画（Pala di Bardi）

①

②：部分

ローディ　：
Lodi

カリスト・ピアッツァ
Callisto　Piazza

ミラノ中央駅から東に向かう鉄道で、30 分ほどで着きます。地下鉄でミラノ・ロゴレド（Milano Rogoredo）経由で行く方法もあります。
ローマ帝国時代から、ミラノとピアチェンツァ（Piacenza）の間にある、街道沿いの街として発展してきました。
3 世紀に早くも司教座がおかれ、初代の大司教、聖バシアヌス（San Bassianus）が街の守護聖人とされています。街の繁栄の基礎はアッダ（Adda）川の流域に広がった豊かな農産物です。13 世紀から始まった長年に渡る灌漑事業の成果が現在にまで続いています。
ローマ教皇派と神聖ローマ皇帝派による抗争にローディも巻き込まれ、1111 年にミラノより、街は完全に破壊されましたが、1158 年に神聖ローマ帝国のバルバロッサ皇帝が現在の場所に街を再建させています。14 世紀からミラノのヴィスコンティ（Visconti）家により支配され、城が建設され城壁都市となっています。小さな街の割には街の豊かさを表すように、多くの聖堂があります。特に、12 世紀から 15 世紀にかけて繁栄した街ですから、聖堂もその時代に建設されたものが多くみられます。
この街に関連して、歴史に残る重要な事件が三件起きています。
一番目は、宗教上の出来事です。1413 年に対抗教皇のヨハネ 23 世により、教皇の勅書が発信されました。これにより、1414 年から 1418 年に掛けてコンスタンツで公会議が開催され、カトリック教会の大分裂が終止符を打つことになります。
二番目は、街の名前の付いた条約が締結されたことです。1454 年にローディの平和条約（Peace of Lodi）と呼ばれる、紛争解決に関する平和条約が締結されました。当時の大国であったミラノ、ナポリ、フィレンツェが集結して平和条約を締結したことです。これにより、ヴィスコンティ家から代わったスフォルツァ（Sforza）家によるミラノ公国が承認され、マントヴァ（Mantova）のゴンザーガ(Gonzaga)家、フェッラーラ（Ferrara）のエステ（D'Este）家、サヴォイア家、ジェノヴァ共和国、ヴェネチア共和国などの北イタリアでの勢力図が確定しています。
三番目は戦争に関することです。1796 年にナポレオン将軍がイタリアに遠征し、オーストリアに勝利した「ローディの戦闘」です。これ以降ナポレオンは歴史の表舞台に出て

くることになります。

〇聖堂

◇大聖堂　（Vergine Assunta）

1111 年にミラノにより街が破壊されたとき、大聖堂も同様に破壊されましたが、1158 年 8 月 3 日から再建され 1163 年にロマネスク様式で完成しています。同年の 11 月 4 日に街の守護聖人の聖バシアヌス（San Bassianus）の聖遺骨が地下聖堂に移遷されています。この祝典には神聖ローマ帝国のバルバロッサ皇帝が立ち会っています。正面から見て右手には 16 世紀の半ばに建設された、中央の薔薇窓と同じ大きさ時計が付いた、ほとんど窓のない矩形の大きな鐘楼が接続しており、大聖堂は非対称型となっています。中央には 16 分割された大きな薔薇窓と脇にはルネサンス様式の二連窓が並び、最上階には聖バシアヌスの立像が掲げられています。扉口の両脇にはライオンがポルティコの柱を支え、ティンパヌムにはキリストの脇に聖母と聖人の浮彫が施されています。聖堂内は三廊式で、中央祭壇の奥の内陣は一段と高さが高くなっており、聖歌隊席があります。

地下聖堂には、聖アルベルト・カンドレリ大司教（Alberto Quadreli：1168 年から 1173 年)の聖遺骸が祀られています。

右側廊には礼拝堂が三箇所並んでいます。

最初の礼拝堂にある「多面祭壇画」はカリスト・ピアッツァ作で、下段の中央に「赤子殺し」が描かれています。その右側には聖グレゴリオ教皇と聖アルベルト司教が描かれ、左側には殉教聖人の聖ナボレ(Naborre)と聖フェリチェ（Felice）が描かれています。その右手にはアルベルト・ピアッツァとマルティノ・ピアッツァ作で、周囲を天使で囲まれた聖母被昇天を中央に描いた「祭壇画」が掲げられています。

◇　聖ロレンツォ聖堂　　（San Lorenzo）

1159 年建設のロマネスク様式の聖堂です。正面の中央に扉口が一か所あり上には丸窓があり窓の上には聖ロレンツォの立像が見えます。正面からは予想できないほど奥行き

のある聖堂です。
聖堂内は三廊式で、内陣の主祭壇にはキボリウムの上にキリストの立像が載っていますが、奥のアプシスにはカリスト・ピアッツァ作の「キリストの復活」がフレスコ画で描かれています。

◇　インコロナータ修道院　（Santuario dell'Incoronata）

1488 年にロンゴバルド・ルネサンス様式で建設されています。聖堂内は青と金色を基調とした華やかな空間が広がっています。青い柱には多くの人物が描かれ、金色の半球型のドームは幾何学模様で覆われています。八角形の建物の正面には主祭壇が設けられ、両脇に二か所、放射状に祭壇が設置されています。主祭壇には聖母子と聖カタリーナの絵が飾られており、右側の二番目にある聖パオロ祭壇には、カリスト・ピアッツァの「パオロの落馬」の作品が掛けられています。この他に「洗礼者聖ヨハネの斬首」など、ピアッツァ工房の作品が数点飾られています。

◇聖アグネス聖堂　　（Sant'Agnese）

聖堂の前には広場もなく、小さな聖堂ですから、近くまで行かないと見えてきません。
14 世紀に建設されたゴティック様式の聖堂です。
聖堂内は三廊式で、中央祭壇には 15 世紀制作のキリストの磔刑像が飾られています。右側廊の礼拝堂にはアルベルト・ピアッツァ作の多面祭壇画があります。

〇カリスト・ピアッツァ　（Callisto Piazza）　(1500-1561)
カリスト・ピアッツァはマルティノ・ピアッツァ（Martino Piazza）(1475-1523)の息子で、マルティノ・ピアッツァの弟がアルベルト・ピアッツァ（Alberto Piazza）(1490-1529)です。ピアッツァ家からは多くの画家が出ていますが、その中で一番名を成したのは、カリスト・ピアッツァでした。
カリスト・ピアッツァはローディの生まれで、最初父親の下で絵を学びましたが、才能が認められてブレシア（Brescia）に送られ、ブレシア派の技法を身につけています。
その後　クレマ(Crema)などロンバルディア地方を中心に北イタリアの各地を廻って修業をしています。
また、フェッラーラ派のドッソ・ドッシ（Dosso Dossi）の影響を受けています。
1529 年に地元に戻り、叔父の工房を引き継いで、二人の弟と共に運営しています。1540 年以降はミラノに出て、スフォルツァ城の他、多くの聖堂でフレスコ画を描いています。中でも聖マウリツィオ聖堂（San Maurizio)では、十字架降下礼拝堂（Cappella della Deposizione）のフレスコ画を息子（Fulvio）と共に制作しています。
画家として活躍したのは 1524 年から 1556 年までの期間で、晩年の 10 年間は地元で息子と共に創作活動を続けていました。

モンセリチェ　：
Monselice

ヤコポ・パルマ
Jacopo Palma　or　Jacopo Negretti

イタリアの東北に位置し、ポー川(Po)の流域の街です。
ヴェネチアからは鉄道で、ボローニャ（Bologna）に向かって南下し、パドヴァ（Padova）経由で、1 時間ほどで着きます。また、ミラノからはマントヴァ（Manova）乗り換えで 4 時間かかります。鉄道の分岐点になっています。
街は、遠くからでも見える平野に浮かぶ山（Rocca）の西から南に掛けて発展してきています。山裾に開けた街ですから道に高低差があり、道は複雑に入り組んでいます。なお、街のシンボルでもある山城を頂く山は、鳥類保護区となっており、山城まで登ることは出来ません。
鉄道の駅は街の西のはずれに在るので、旧市街の中心までは 1 キロメーター程歩くことになります。
街の歴史は古く、ローマ時代には、火打石が露天掘りで採掘できる山が在ったことから、モン・シリチス（Mons Silicis）として知られていました。西ローマ帝国滅亡後はビザンティン帝国のラヴェンナの総督府により、支配されていました。街の歴史は城の歴史と重なります。
山頂の砦（Colle della Rocca)はビザンティン帝国がロンゴバルド族からの襲撃を守るためのものでしたが、6 世紀末にはロンゴバルト王国の一部を構成しています。街は城壁で囲まれた城塞都市で、現在でも城壁の多くが残されています。
自治都市でしたが、グラッパ（Bassano del Grappa）の領主、ロマーノ家（Da Romano）がこの一帯を支配下に治めています。12 世紀から 13 世紀にかけて、北イタリアでは各都市が神聖ローマ帝国皇帝派（Ghibelline）とローマ教皇派（Guelph）に分かれて抗争が続いていましたが、その時期には神聖ローマ帝国皇帝派に属していました。

神聖ローマ帝国のフレデリック 2 世皇帝の命令で、10 世紀に山の中腹に建設されていた聖ジュスティーナ聖堂を破壊しその石材で強化されています。同様に城壁も強固にされ、特に山頂から街の南西方面に幾重にも城壁が建設されました。麓にはエッツェリーノ 3 世（Ezzelino III da Romano)により、旧来の平城に頑丈

な塔（Torre Ezzeliniana）が付け加えられています。
その後 1338 年にはパドヴァの領主のカッラーラ家（Da Carrara）が街を占領し、ロマーノ家に代わって城を占有しています。15 世紀になると、強大なヴェネチアの支配下に入り、ヴェネチアの富豪のマルチェッロ家が買い取り屋敷（Ca Marcello）として城を改築して拡張しています。その後、ヴェネチアの没落と共に城の持ち主にも変遷が出ています。20 世紀になってチーニ（Vittorio Cini）伯の所有となった後、現在では中世から近世の貴重な武器を展示する公営の博物館（Castello Cini di Monselice）になっています。

〇聖ジョルジョ聖堂　　（San Giorgio）

ヴェネチアの支配時代に、ヴェネチアの富裕層が別荘を建設しています。ドゥオード家もその一つです、聖ジョルジョ聖堂の奥に別荘があります。ピエトロ・ドゥオード（Pietro Duodo）のローマ教皇への働きが功を奏して、三体の聖遺骨の移遷が実現し、1651 年に到着します。この聖人の聖遺骨を収納するために建設されました。聖堂の扉口の前には柱廊が在り、右手奥に鐘楼が在ります。崖に建設されていますので、正面から見ると平家のようですが、横から見ると三階以上の高さが在ります。
聖堂内は八角形で円形のドームが載り、正面には螺鈿製で聖ジョルジョが竜を退治している図が描かれた祭壇があります。奥の礼拝堂は円形の納骨堂で、聖母子像の両側には三列、四層に棚が設置され、その一つ一つに遺骸が収納されています。相当数の遺骸が整然と収納されており、独特の雰囲気を醸し出しています。

〇七聖堂　　Santuario Giubilare delle Sette Chiese
16 世紀初期に起きた宗教改革に対抗し、トレント公会議後の対抗宗教改革の流れの中で、ローマでは聖フィリッポ・ネリ（Filippo Neri）を中心とした宗教活動が盛んに行われていました。その活動の一環として、聖地巡礼が推奨されましたが、遥かエルサレム迄行くことは民衆にとってかなわぬ夢でした。
そこで、キリストの聖十二使徒の筆頭者の聖ピエトロが殉教したローマに巡礼することが盛んになっていきます。。ローマ市内には聖ペトロや聖ロレンツォが殉教した場所もあり、聖人ゆかりの聖堂を巡ることが流行となっていました。
ピエトロはこのようなローマでの行動に多大な影響を受け、モンセリチェに聖堂建設を思い立ちます。1605 年に、時のローマ教皇のパオロ 5 世からローマの重要な七聖堂に因んだ聖堂建設の許可を得ることに成功します。

建築家のスカミッツィ（Vincenzo Scamizzi）に命じ、1610 年まで掛けてローマの七聖堂の縮小版聖堂を建設しました。1651 年にローマから三体の聖遺骨が到着するに至り、この殉教者の聖遺骨を収納するために改めて聖ジョルジョ（San Giorgio）聖堂を建設して、七番目の聖堂に当てています。六個所の聖堂は、山の麓から順に、

① サンタマリア聖堂（Santa Maria）
② 洗礼者聖ヨハネ聖堂（San Giovanni Battista ）
③ 聖十字架聖堂（Santa Croce in Gerusaremme）
④ 聖ロレンツォ聖堂（San Lorenzo）
⑤ 聖セバスチャン聖堂（San Sebastiano）
⑥ 聖ピエトロとパオロ聖堂（Santi Pietro e Paolo）と並んでいます。

どの聖堂も幅と奥行きが各 5 メーターほどの大きさで、三角形の破風が載る、同じような形をしています。聖堂と言うよりは祠ともいうべき大きさです。ただし、細かな点で、各聖堂は異なっており、その差異を見つけることもまた楽しみです。
聖堂のなかにはヴェネチア派の画家のパルマ(Palma il Giovane)により、それぞれの聖堂の聖人にふさわしい絵が収められています。目近に見ることができますが、かなり風化が進んでいます。

サンタマリア聖堂

洗礼者聖ヨハネ聖堂

聖十字架聖堂

聖セバスチャン聖堂

参考

1575 年の聖年の年にはイタリア各地からのみならず、欧州の各地方からローマへの巡礼に大勢の人々が集まったことが記録されています。ローマで特に巡礼者を集めた聖堂は以下の七聖堂です。

① 聖ピエトロ聖堂（San Pietro）。
② サンタマリア・デレ・マッジョーレ聖堂（Santa Maria delle Maggiore）。
③ 聖ジョヴァンニ・イン・ラテラノ聖堂（San Giovanni in Laterano）。
④ 聖十字架聖堂（Santa Croce in Gerusaremme）。
⑤ 聖パオロ聖堂（San Paolo fuori le mura）。
⑥ 聖セバスチャン聖堂（San Sebastiano）。
⑦ 聖ロレンツォ聖堂（San Lorenzo fuori le mura。

〇ヤコポ・パルマ（Jacopo Palma　or　Jacopo Negretti）
（1480-1528)/（1548-1628）

同姓同名の人物が二人存在し、しかも二人とも画家であり、叔父と甥の関係にあります。従って区別するために、老パルマ（Palma il Vecchio）と若いパルマ(Palma il Giovane)と呼ばれています。

モンセリチェの壁画を描いたのは、若いパルマ、です。

親元で画家として修業を始め、1567 年から 4 年間ローマに留学しています。ラファエロやティントレットに大きな影響を受けたとされ、ヴェネチアでは、ティティアーノについて学び、多くの作品を模写することで才能を伸ばしてきました。

師の死去により完成しなかった「ピエタ」を完成させています。師の死後のヴェネチア画壇を代表するヴェネチア派の一人と見做されています。聖ヨハネ・パオロ聖堂（San Giovanne e Paolo）に埋葬されています。

長寿であったことから、多くの作品が残されていますが、大半はキャンバスに描かれており、この地に見られるようなフレスコ画は多くはありません。

聖母子と聖人達　ヴェネチア：San Zaccaria 聖堂

オルヴィエート　：
Olvieto
ルカ・シニョレリ
Luca Signorelli

ローマからフィレンツェに向かう電車で 1 時間から 1 時間半で到着します。
電車の中から見える街は雲の上に浮いているように山の上にあります。
駅前から登山電車（Funicolare）に乗って街に登って行きます。街の周囲は垂直に近い崖となっており、山頂の台地にある街は天然の要塞のようです。登山電車はカエン広場（Piazza Cahen）に到着します。街の大動脈である東西を結ぶカヴール大通り（Corso Cavour）を中心に、細い道が左右に葉脈のように広がっています。街は歩いて十分に廻れるほどの広さですが、道が曲がりくねって見通しがききませんので、目的地に到着するのは結構大変です。

カヴール通りから大聖堂と反対に北に向かうと街の中心にあるポポロ広場に出ます。
12 世紀に建造されたロマネスク・ゴティック様式の宮殿（Palazzo del Popolo）があります。上層部には 3 連式の窓がリズミカルに優雅に並んでいます。
ローマが占領したのが紀元前 264 年と言われるほどの歴史が有る街です。13 世紀には教皇の別荘地として好まれ、繁栄しましたが、14 世紀の黒死病で街は大きな損害をこうむりました。15 世紀以降は教皇領となっています。なお、特産の白ワインは絶品です。
〇大聖堂
1260 年から 16 世紀までの長期間に渡り建設を続けられており、小さな街には相応しくないほど豪華絢爛な壮大な建築物です。カヴール通りから南にドゥオーモ通りに左折すると狭い石畳みの先に見えてきます。前には広場があり、聖堂全体が見渡せます。

正面には三箇所の扉口が有り、中央扉口のブロンズ製の扉は、20 世紀の制作です。その脇柱は左から旧約聖書からの浮彫、新約聖書からの浮彫、キリストの生涯からの浮彫、最後の審判の浮彫で飾られており、その豊かな表現力と巧みな細工は

見ていて飽きることが有りません。
特に最後の審判で地獄に落ちる人の表情は哀れです。また中央扉口の付け柱には繊細な浮彫が施されています。多くの彫刻家が動員されましたが、中でもシエナの匠、マイタニ（Lorenzo Maitani）の活躍が光っています。

その上には極彩色のモザイク画で聖母被昇天、キリストの洗礼、受胎告知、降誕、聖母の結婚、神殿奉献の他、最上段の三角形の破風には聖母戴冠が描かれています。大きな中央の 16 世紀の薔薇窓の周囲には四大教父が描かれ、周囲には多くの聖人の立像が見えます。
聖堂内は三廊式の大きな空間で、白の灰青色の縞模様のコリント式の柱は同色彩の壁と良く調和しています。正面のアプシスはステンドグラスで、中央祭壇にはキリストの磔刑が置かれ、周囲はフレスコ画で飾られています。
左翼のコルポナーレ礼拝堂（Cappella del Corponale）にはヴィエリ（Ugolino di Vieri）1338 年制作の、「聖血のハンカチ」が聖遺物容器に収納されています。右手にはメンミ（Lippo Memmi）1320 年作の「慈悲の聖母」が見えます。
多くの絵画や聖遺物が掲示されていますが、その中で圧巻は、右翼にある聖ブリツィオ礼拝堂（Della Madonna di San Brizio）（1449-1502）にあるルカ・シニョレリ作の壮大な大きさのフレスコ画です。
「反キリスト者の説教」、「至福の天国」、「死者の復活」、「終末・地獄落ち」の四面の絵が掲げられています。
〇ルカ・シニョレリ（Luca Signorelli）(1445-1523)
アレッツォ(Arezzo)の近郊の出身です。
フランチェスカ(Piero della Francesca)のもとで修業しています。1481 年にはペルジーノ（Perugino）と共に教皇庁のシステナ礼拝堂で、フレスコ画を描いていることからも、当時一流の画家と評価されていたことが分かります。
その後フィレンツェに出て、メディチ家の下で制作活動を行い、1490 年代にはシエナを始めトスカーナ地方で活躍していました。
正確な肉体表現を得意とし、ミケランジェロの先駆者と見做されています。
50 年以上前にフラ・アンジェリコ（Fra Angelico）が請け負い、ゴッツォーリ（Benozzo Gozzoli）等と共に描き始めたオルヴィエート大聖堂内の聖ブリツィオ(San Brizio)礼拝堂のフレスコ画を完成させています。

なお、この大作を完成させた後は、16 世紀になり、ルネサンスを代表する大画家が多く出現することにより、ローマやフィレンツェにおいて新たな芸術の流れの勃興にに適合できず、地方都市に引き籠もり、祭壇画のような旧態依然とした宗教画を描いていました。

△礼拝堂の作品の解説

１.「反キリスト者の説教」

耳元でささやく悪魔の言葉を、そのまま民衆に伝える説教者が中央に立ち、足元に私財の提供を呼び掛けています。

サボナローラの隠喩と見做された作品です。なお、左端に立つ黒い衣の二人は作者とフラ・アンジェリコです。

２.「至福の天国」

「反キリスト者の説教」の右側に描かれています。

天には楽器を奏でる多くの天使が描かれ、地上の人間は観な延び延びと描かれています。

３.「終末・地獄落ち」

黙示録を題材にした作品です。

天には大天使ミケーレが描かれています。多くの裸体の人間が地獄で悪魔の拷問を受けています。

４.「死者の復活」

「終末・地獄落ち」の右側に描かれています。

天では天使がラッパを吹き、それにつれて、地下から死者が復活して来ています。

パドヴァ　：
Padova
ジョット
Giotto

イタリアの東北にある歴史ある街です。
ミラノから鉄道を利用した場合、特急を利用すると 2 時間ほどで到着します。ヴェネチアからはローカル電車で 30 分ほどの距離にあります。
駅は街の北の端に在り、駅前からポポロ通り（Via Popolo）で南に向かって運河を渡り、城門を通ってガリバルディ通り、2 月 8 日通り、と南下して街の中心にある、ラジョーネ（Palazzo Ragione）宮まで歩くと、30 分ほど掛ります。東西より南北に広がっている街で、移動には路面電車を活用すると便利です。
城壁都市で、運河と城壁に囲まれており、現在でも城壁を多くの場所で見ることができます。
街の歴史は古く、ローマの歴史家のヴァージル（Virgil）によれば、紀元前 1180 年に、トロイの王子アンテノール（Antenor）によって建設された街だそうです。しかも 12 世紀にその墓がパドヴァの近郊で発見され、1294 年に人文学者のロヴァーティ（Lovato de'Lovati）がその遺骨であることを確認したとされています。
従いまして、パドヴァの市民は周辺の街とは歴史的な観点から格が違う、と自負していたようです。
このようにローマの時代以前からある古い街ですが、ローマの遺跡は円形競技場（Arena）の形が分かる程度で、その他はほとんど残っていません。
7 世紀初めにランゴバルド族により街は破壊され、その後長い間街は廃墟となっていました。ヴェネチアの街を建設する際に、廃墟となっていたパドヴァの街の石が建築資材として運ばれたことから、ローマ時代の神殿や劇場などのローマの遺跡は残っていないのです。
パドヴァが復活するのは 13 世紀になってからです。イタリアで一番古い、即ち欧州で一番古い大学は 1088 年にボローニャ（Bologna）に設立されましたが、1222 年にはイタリアで二番目に古い大学がパドヴァに創設されました。
ピエトロ・ベンボ、ガリレオ・ガリレイ、ダンテ、ペトラルカ、などの大学者が教壇に立ち、コペルニクスも学んだ大学は街の中心地に在ります。1594 年に造られた人体解剖教室も残っています。

13 世紀の遺構の一つが、裁判所であったラジョーネ宮（Palazzo della Ragione）で、現在ではアーチの並ぶ前廊の一階部分の奥には肉屋、魚屋など色々な店が並び、二階にもアーチ型で、側壁と天井が絵画で飾られたアーケードの通路が続き、内部には体育館のような空間が広がっています。内側の壁面はキリストの公生涯など、一面絵画で埋め尽くされています。
宮殿の前のエルベ広場（Piazza delle Erbe）は毎日市場が出て、喧騒に包まれた活気にあふれた広場です。宮殿の裏手には果物広場（Piazza della Frutta）が在りますが、果物だけでなく衣料品も扱う店が出ています。
聖アントニウス聖堂の建設が始まったのも 13 世紀でした。13 世紀はパドヴァが一番輝いた時でした。
繁栄した自由都市の時代を経て、14 世紀にはヴェローナ（Verona ）のスカリゲリ家（Scaligeri）の支配下に置かれますが、市民は街の歴史と大学と聖アントニウス聖堂をよりどころとしてプライドを持ち続けました。しかしながら 15 世紀初めに、巨大な勢力を誇るヴェネチアの軍門に下っています。

街の南の端には 16 世紀半ばに開設された、欧州で一番古い植物園（Orto Botanico）が在ります。
ラジョーネ宮殿前のエルベ広場を中心にして、旧市街の見どころは歩いて廻れる距離にあります。
街の中心地には活気ある庶民の市場と学問の府が並び、探索するのに楽しい街並みが続きます。
大学における学問的な思考と、多くの聖堂における精神的な思索が違和感なく共存している、落ち着いた街といえるでしょう。

〇スクロヴェーニ礼拝堂　　Cappella degli Scrovegni
ローマの円形競技場の跡地の公園内には、スクロヴェーニ礼拝堂と市立美術館、聖エレミターニ聖堂が並んでいます。
スクロヴェーニ礼拝堂はアレーナ礼拝堂と呼ばれることが有りますが、アレーナとは、円形競技場（Arena）の場所に在ることからの名称です。

銀行家エンリコ・スクロヴェーニ（Enrico Scrovegni）が父の菩提を弔うために 1303 年に建設した、受胎

告知の聖母、に奉献された礼拝堂です。

小さな礼拝堂ですが、天井から側面まで、ジョット（Giotto）が 1303/4 年から 1305/6 年に掛けて制作した、主にキリストの生涯を題材とした作品で埋め尽くされています。

ジョットはスクロヴェーニ礼拝堂での制作に先立ち、1296 年から 1299 年頃にアッシジの聖フランチェスコ聖堂に「聖フランチェスコ伝」を描いています。

アッシジの聖フランチェスコ聖堂は巨大な聖堂ですから、チマブーエやシモーネ・マルティネ他、多くの画家や工房が介入した作品が見られますが、このスクロヴェーネ礼拝堂はジョット一人が描き切っていますので、ジョットを堪能することができます。

礼拝堂に入ると右側面から左側面に掛けて、最上段は聖母の生涯で、「ヨアキムの神殿追放」、「アンナの受胎告知」、「聖母の生誕」、「聖母の結婚」など 12 面が描かれ、その下には二段になってキリストの生涯が描かれています。

「降誕」、「東方三王の礼拝」、「エジプト逃避」、「洗礼」、「ラザロの復活」、「エルサレム入城」、「最後の晩餐」、「洗足」、「捕縛」、「カルヴァリオの丘へ」、「磔刑」、「哀悼」、「聖霊降臨」など 22 面が描かれています。

礼拝堂の正面の凱旋門アーチの最上段には「大天使ガブリエルに受胎告知を命ずる神」、下段に左に大天使ガブリエルと右に聖母に分かれての「受胎告知」、その下は「ユダの裏切り」と「御訪問」の 4 面が描かれています。

扉口上の「最後の審判」では中央のキリストを天使が取り囲み、両脇には聖十二使徒が坐し、上には多くの天使が並んでいます。最下層部の、向かって左側には天国が、右側には地獄が描かれています。

半円筒型穹窿天井には紺碧の天空に星が輝いています。

なお、両側面の最下段には賢明、剛毅、節制、正義、信仰、慈愛、希望、の七つの徳目と、暗愚、

移り気、憤怒、不正、不信仰、嫉妬、絶望、の七つの罪源の対比がモノクロームの寓意画で描かれています。

全てが見事な作品ですから時間は幾ら有っても足りません。
しかしながら、聖堂への入場には人数制限と滞在時間制限が有りますので、ゆっくりジョットを鑑賞することができません。非常に残念です。
事前に予約しておくことが肝心です。なお、昨今は訪問者が増えてきていますので、当日、もしくは翌日に入場できるとは限りません。滞在日数に応じた対応が必要になっています。
以前は聖堂内での写真撮影は禁止されていましたが、現在ではフラッシュ無しでの撮影は許可されています。

〇ジョット　　（Giotto　Bondone）(1267-1337)
ジョットは、イタリア・ルネサンスの先駆けとなった偉大な画家です。
ビザンティン芸術が主流であった時代に、三次元的な空間表現を絵画に取り入れ、人物を現実的な背景の中に表現したことにあります。
主要な作品としては、リミニのマラテスティアーノ聖堂の「キリストの磔刑」1309 年。ウフィツィ美術館の「荘厳の聖母」1310 年。フィレンツェのサンタ・クローチェ聖堂内のバルディ礼拝堂の「聖フランチェスコの葬儀」1320 年頃。
フィレンツェの大聖堂脇の「ジョットの鐘楼」は 1334 年に建設が開始されています。

パルマ　：
Parma
コレッジオ
Correggio

ミラノから鉄道を利用した場合、1 時間半ほどで到着します。駅は街の北端に在りますので、市内へはバスを利用することになりますが、駅前から街の中心部へのアクセスは便利です。
パルマは近郊の町村への起点ともなっていますので、バス路線が発達しており、鉄道ではいけない近隣の村を訪れるのにも非常に便利です。
パルマは古く紀元前のローマ時代から続く街で、ピアチェンツァからリミニまで伸びるエミリア街道の主要な街と建設され、発展してきました。
イタリア北部の多くの都市がローマ教皇側と神聖ローマ帝国皇帝側とに分かれて戦った時代には神聖ローマ帝国皇帝側に立ち、11 世紀にはローマ教皇に対抗して二人の法王が出ています。
都市国家共和国として繁栄した時代が有りましたが、有力な支配者が存在せず、あまり目立たない時期が続きました。

パルマが歴史の表舞台に出てくるのは、1545 年にパウルス 3 世教皇がパルマとピアチェンツァを元に、公爵領を人工的に造り上げ、長男に与えた時からです。それがファルネーゼ(Farnese)家です。ピロッタ宮殿（Palazzo della Pilota）が建造され、ラヌッチョ 1 世公爵は 1618 年からファルネーゼ劇場を建設させています。その後多くの聖堂や修道院が造られて来ました。
ピアチェンツァのカヴァッリ広場にはラヌッチョ 1 世公爵の騎馬像があります。
ファルネーゼ家は 8 代続きますが、1731 年以降はフランスのブルボン(Bourbon)家がパルマ公爵を継承し、イタリアの統一まで支配しています。

フレスコ画で埋め尽くされた、大聖堂とその脇にある洗礼堂をはじめ、多くの重要な聖堂が有るばかりでなく、宮殿(Palazzo della Pilotta)や博物館や美術館（Galleria Nazionale di Parma）や劇場など、其々の時代に応じた遺跡や建物等、訪問すべき所が沢山あります。

16 世紀の初めの 20 年間に、コレッジョ（Correggio）、パルミジャニーノ（Parmigianino）により、パルマ派と呼ばれる芸術流派が形成され、芸術の黄金時代を築き上げています。また、パルマはパルマハムやパルメジャーノ・レッジャーノのチーズで有名な美食の街ですから、高級な飲食店だけでなく、洗練されたお洒落なレストランが多くあります。ゆっくり滞在して文化を満喫したい街です。

〇聖堂

◇大聖堂　　Duomo

11 世紀半ばにパルマの司教で後の対抗法王となったオノリウス 2 世（Onorio　Ⅱ）により建設が開始され、1106 年に法王パスカル 2 世（Pasquale Ⅱ）により奉献されています。1117 年の大震災で崩壊し、その後再建されています。

イタリアのロマネスク建築を代表する大聖堂です。聖母被昇天に奉献されています。

正面には三か所の扉口があり、中央扉口の両脇には動物を捕まえた姿勢の 2 頭のライオンが独立した円柱を支えてアーチ状の差掛け下屋を構成し、その上のアーチには切妻屋根が載っています。聖堂正面の壁面にもアーチがありますので、正面には大きなアーチが三層構造となっています。

二層目と三層目のアーチから三連式の幅の狭いアーチが左右 2 箇所ずつにまとめられて横に並び、更に切妻屋根に沿って小さなアーチが両脇からせり上がっています。最上部のロンゴバルド帯には人物と動物の顔の彫刻が見られます。この構造により見る者は洗練された優美な印象を受けることになります。中央扉口の楣石にはケンタウロス、グリフォン、二頭の怪獣などロマネスク特有の彫刻が見られます。

各扉口は細かに彫刻された数本の柱でアーチを構成しています。右脇の鐘楼は 13 世紀末にゴティック様式で建設されています。

聖堂内部はラテン字型の三廊式で、一段と高くなった内陣の中央にある主祭壇には聖使徒が六人並ぶ彫刻が施されており、アプシスには金鍍金されたキボリウムが置かれています。その両脇にはヤーコポ・フィリポとダミアーノのゴンザーガ兄弟によるブロンズ製の福音書記者像 1508 年作、があります。天井にはベドリ（Girolamo Mezzola Bedoli）作の最後の審判のフレスコ画が見られます。交叉廊の右側にアンテラミ（Benedetto Antelami）作のキリストの十字架降下の浮彫があります。

イタリアゴティック彫刻の最傑作とされ、その後の彫刻に大きな影響を与えた作品で、ビザンティン様式が伺える作品です。アンテラミはフィデンツァ（Fidenza）の大聖堂の正面の彫刻も手掛けています。

交叉廊のドーム天井にはコレッジョ作の「聖母被昇天」が透視図法により、雲が渦を巻きその中に多くの聖人と合唱天使と奏楽天使を配して、聖母が天に昇る様子が地上に居る我々が見上げている状況で描かれています。

その下の八角形の枠の四隅には貝殻の形を背景に 4 人のパルマの守護聖人が描かれています。両側廊には各々6 箇所に礼拝堂が並び、12 本の柱の上にはのアーチが載り、柱頭は動物や爬虫類、植物の葉の彫刻で飾られています。

壁面からボールト天井まで、ロマネスク様式とルネサンス様式の多くの絵で埋め尽くされています。

◇福音書記者聖ヨハネ修道院　　（Abbazia di San Giovanni Evangelista）

10 世紀末に建設された聖コロンバ（San Colombano）聖堂が 15 世紀半ばに火災で焼失し、16 世紀になってザッカーニ(Bernardino Zaccagni)の設計で、ルネサンス後期のマニエリスム様式で建設された、ベネディクト派の修道院です。右後方には 76 メーターあり市内で一番高い鐘楼が聳えています。

聖堂の正面には三か所扉口があり、中央扉口の左側に福音書記者聖ヨハネ、右に聖職者、上に聖母、二層部の中央の窓の両脇に聖職者、屋根の両端に聖人、の合計七体の立像彫刻が飾られています。

両脇の扉口の上と、屋根の最上部に丸窓があります。

聖堂内はラテン十字形の三廊式で、中央交叉廊には大きなドームが載っています。

中央主祭壇奥のアプシスにはベドリ（Gerolamo Mazzora Bedoli）1555 年作、キリストの変容が、上の半円形ドームにはコレッジョ作、「聖母戴冠」が描かれ、脇にはマルティーニ(Innocenzo Filippo Martini)1588 年作、「巫女と予言者」が描かれ、中央主祭壇上には天使が描かれています。

中央交叉廊のドームには、多くの天使に囲まれて中空に舞うキリストを 11 人の聖使徒が周囲から見上げている、コレッジョ 1520 年作、「キリストの昇天」が描かれ、四隅には四大教父と八人の聖書の人物が描かれています。

なお、

ヨハネは他の使徒とは別に、円の脇のコーニスに居て、パトモス島で黙示録を記載しているところです。この聖ヨハネは 1962 年に洗浄した時にフレスコ画の上にセッコで追加されていたことが判明しています。
右側廊には東方三王の礼拝、聖母子と聖ジャコモ、生誕などが描かれた礼拝堂が並び、左側廊にはパルミジャニーノ（Parmigianino）の、聖アガタ、聖ルチアや、聖カテリーナ、聖ニコラなど 16 世紀の作品がかけられた礼拝堂が並んでいます。非常に絵画性の高い聖堂です。

◇聖パオロ修道院の小部屋　　（Camera di San Paolo）
メローニ通りから左に入る最初の細い道は、木立でトンネルになっており、都会の喧騒から離れて静寂が占めています。奥の右側にあります。

かつてバデッサ・ジョヴァンナ・ダ・ピアチェンツァ（Badessa Giovanna da Piacenza）が修道尼僧として暮らしていた部屋が美術館として開放されています。
ほぼ正方形の部屋は、1516 年に招聘されたコレッジョが描いたフレスコ画が天井に残っており、コレッジョの部屋（Camera del Correggio）として紹介されています。
部屋の天井は中央から放射状に 16 等分されており、それぞれに、最下段にグリザイユで描かれた、鳩を持つ女性、笛を吹くパン、三人の裸婦、槍を持つ男性裸像、天使、サソリを持つ女神、などが並んでいます。その上の段の絵は彩色されており、メダイオンの中に二人ずつ裸の子供が犬を抱え、鹿の頭を持ち上げ、角笛を吹き、弓を持って戯れています。
その上には花束が描かれています。
また不思議なことに、暖炉の上には二頭の鹿が引く戦車に乗る狩の女神ダイアナが描かれています。
色鮮やかに残されており、戯れる子供のしぐさはかわいらしく、ほほえましいものですが、この部屋に描かれたものが、ギリシャ神話に発想を得た

ものか、枢要徳の表象か、寓意なのか、何を意図して描いたのか、何を意味しているのか判断ができません。正に幻想的な天井画で、現実世界とは程遠い異常な空間に身が置かれることで、浮遊しているような感覚になれる特徴ある部屋です。
このような絵画に囲まれて生活することがどのような精神構造をは
ぐくむのか、興味のある空間です。

◇聖アントニオ聖堂　　（Sant'Antonio Abate in Santo Stefano Protomartire）
一か所の扉口の両脇にイオニア式の柱頭飾りのある円柱がアーチを支えていますが、その脇に並んで方形の片蓋柱が屋根を支える特徴ある外観を構成しています。小さな聖堂です。
14 世紀後半、1386 年から 1404 年にかけて建設されています。18 世紀にサンヴィターレ（Antonio Francesco Sanvitale）枢機卿の指示のもと、ガリ・ビリエナ（Ferdinando Galli-Bibiena）の手により、バロック様式に改築されています。なお、この枢機卿はフォンタネラート伯（Conte di Fontanellato）の爵位を持つパルマの貴族出身です。

当初は正式名称が示すように、聖ステファノ聖堂でした。聖堂の裏手にある聖ステファノ広場（Piazzale Santo Stefano）やステファノ通り(Borgo Santo Stefano)にその名前が残っています。19 世紀になって現在の名前に変更されています。
聖堂内は単廊式で中央主祭壇には聖アントニオの絵がかけられています。両脇には美の寓意像が壁龕に収まっています。

この聖堂は天井に特徴があり、二重構造になっています。上層の天井に描かれた青空に舞う天使と聖アントニオの昇天を下層の天井に穿たれた飾り窓から見ることができます。聖堂の中に立つと聖堂の屋根を通して天空に飛翔する天使と聖人を見ているような錯覚に陥ります。
両壁には二か所の礼拝堂があり、洗礼者聖ヨハネの説教、聖母子のエジプト逃避などパルマ派による絵画が掲げられています。非常に華やかで明るい聖堂です。
なお、現在パルマ美術館に収蔵されているコレッジョ作、「聖母子と聖ジロラモ」（Madonna di San Girolamo）はもともとこの聖堂に収められていましたが、ナポレオンがイタリアを占領した際にフランスに略奪され、後イタリアに返還された作品です。

〇コレッジョ（Antonio Allegri da Correggio）（1489-1534）
モデナ（Modena ）の近郊のコレッジョ村で生まれたことから、通称でコレッジョと呼ばれています。
マントヴァに出てゴンザーガ家の宮廷画家であったマンテーニャ(Mantegna)の画法を学び、パルマに移り、多くの作品を残しています。
天井画に見られる下から点を覗き込むような画法＝短縮法はマンテーニャの影響が見られ、「聖母と聖ジロラモ」はフスマート技法で描かれていることから、レオナルド・ダ・ヴィンチの影響が見られます。晩年はコレッジョに戻りそこで没しています。
代表作
ロンドンのナショナル・ギャラリーLondon National Gallery 所蔵
１．「エッケ・ホモ」Ecce Homo　1525
２．「籠の聖母」Madonna della Cesta　1524
３．「キューピッドの教育」l'Educazione di Cupido　1528

ピサ：
Pisa

ブッファルマッコ
Buffalmacco

フィレンツェから鉄道を利用すると一時間半程で着きます。ルッカ（Lucca）経由とエンポリ（Empoli）経由が有りますので、時間を見ながら選択することができます。
ドゥオーモ、洗礼堂、斜塔、などのあるドゥオーモ・ミラコリ広場を訪れるには、駅前からバスを利用することになります。
ピサはアルノ（Arno）川の両岸に開けたローマ帝国時代からの街で、中世初期にはスペインや北アフリカとの地中海貿易で、ジェノヴァやヴェネチアと覇権を争った海運大国でした。1063 年にはイスラム教のサラセン帝国の海軍をサレルノ沖で撃破する快挙を挙げています。1284 年にジェノヴァに屈し、15 世紀にはフィレンツェに敗れ、その支配下に入ることになります。城壁都市ですが、現在では城壁は北から東側に残るだけとなっています。

〇聖堂
◇大聖堂　（Duomo）

1068 年から 50 年の歳月を掛けたピサ・ロマネスク様式の傑作です。聖堂正面には三箇所の扉口があり、中央扉口の上のティンパヌムには天使に囲まれた聖母が色鮮やかに描かれ、側柱はコリント式の柱頭飾りがあり、その上にライオンが載っています。その上層部は横四層に柱廊が並び、柱には象眼や、釉薬タイルが施され、切り妻の頂点に聖母子の立像が見えます。

聖堂内は奥行きが 100 メーター有る大きな聖堂で、ラテン十字形の三廊式です。中央主祭壇にはキリストの磔刑像が飾られ、内陣にはアンドレア（Andrea del Sarto）作「聖アグネス」他、多くのフレスコ画で飾られています。 アプシスの上の円蓋には王座に坐すキリストの大きなモザイク画があり、両脇には聖母と聖ヨハネが脇侍しています。凱旋門アーチの上

には受胎告知が描かれ、身廊側面は白と緑の横縞の大理石で装飾され、天井は格子間です。
正面向かって左手の説教壇はジョヴァンニ・ピサーノ（Giovanni Pisano）の 1302 年から 1311 年の作で、六本の柱とライオンや人物など彫刻で飾られた五本の柱が支える大きな作品で、六角形の壇上を囲む面にはキリストの生涯を表した浮彫があり、最高傑作の一つに数えられています。
聖堂内にはティノ（Tino di Camaino）作、アリゴ（Arrigo）7 世教皇の墓碑の他、聖母子画、受胎告知のフレスコ画など多くの作品が見られます。

◇鐘楼（斜塔：Tore Pendente）
大聖堂以上にピサを代表する建築物と言えましょう。
ボナンノ・ピサーノ(Bonanno Pisano)により、1173 年に大聖堂の付属建築物として建設が始まりました。最上部は 1350 年に付け加えられ、結果 55.2 メーターの高さになっています。
建設中に地盤沈下により傾き始め、ジョヴァンニ（Giovanni di Simone)、後にトマソ（Tommaso Pisano）の監修の下に完成させられました。良く見ると斜塔は単純な直線ではなく、途中で屈折していることが判ります。
崩壊防止策が施され、現在ではまた鐘楼を登ることが出来るようになりました。294 段の最上階からはピサ港も見えます。

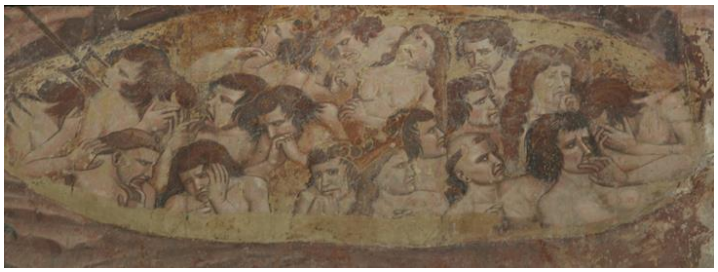
◇洗礼堂　（Battistero）
ドゥオーモの正面の前にある円筒形の建物で、外観は教皇の三重冠のような造りです。1260 年、ニコラ・ピサーノ（Nicola Pisano）の設計で完成しています。
中央扉口上のティンパヌムには聖母子像が立ち、下にはキリストの洗礼などの浮彫があります。側柱はアーカンサス、キリスト、聖母、大天使、聖人など数多くの繊細な浮彫で飾られています。洗礼堂の周囲は聖母子、聖ピエトロ、聖パオロ他、数多くの彫刻が並び、洗礼堂の頂点には洗礼者聖ヨハネの像が立っています。
洗礼堂内にはグイド・ビガレリ（Guido Bigarelli da Como）1246 年作の大きな洗礼盤が置かれており、上には洗礼者聖ヨハネの像が置かれています。
なお洗礼堂の内部にも説教壇が設置されているのは特異と言えましょう。

◇カンポサント　（Camposanto）
ドゥオーモの北に位置し、街の城壁の近くにある大きな建物です。
ピサが海運大国を誇った時代の共同墓地で、1278 年にジョヴァンニ（Giovanni di Simone）により建設されています。

第 2 次世界大戦で破壊されましたが、回廊には多くの石棺が並び、側壁には「キリストの磔刑」、「キリストの復活」、「至高天」、や「旧約聖書を題材とした物語」のほか、戦闘場面や庶民生活など 14 世紀以降に作成されたフレスコ画が多く残っています。

拡大図

回廊から一歩入った大きな部屋の壁一面を飾るフレスコ画が、『死の勝利（Il Trionfo della Morte）』で、ブッファルマッコが 1336 年から 1342 年に制作した作品です。
なお、ヴァザーリ（Giorgio Vasari ）は、その著書で、アンドレア・オルカーニャ(Andrea Orcagna）がピサで制作し、その後フィレンツェでサンタクローチェ聖堂に残る『死の勝利』を描いたと、述べています。
また、フランチェスコ・トライニ（Francesco Traini）の作という学者もいます。
黒死病が流行った時代、身分の高きも低きも平等に襲った凄惨な死を冷徹な目で見て描いた傑作と言われています。但し、欧州各地で、街が無くなったと言われる程の死者を出した大流行の年、1348 年より前に描かれたとされており、直接に黒死病を扱ったのではない、との説が有力です。
絵の左側下には死後の経過時間が異なる三体の死体の入った棺桶が開いて置かれています。通りかかった馬上の騎士たちは鼻を押さえており、周囲には悪臭が漂っていることが推測されます。犬は死体に飛びかかろうとしています。



この構図は、北フランスの吟遊詩人による道徳教訓詩「三体の死者と三人の生者の賦」

の挿絵として14世紀前後に描かれるようになった図像を元にしていると考えられます。

現世で栄華を誇る王侯貴族にも教皇にも、いずれ死が訪れる。死を忘れるな、との教訓を踏まえた作品です。
画面中央では天使と悪魔が戦い、悪魔は人をさらって地獄へ連れて行こうとしています。その右側では花園で果実の下、貴婦人たちが音楽を楽しんでいます。
『最後の審判と地獄』では、画面の左半分に大天使ミカエルが裁きを行い、右半分の中央には地獄の王が座り、人を食らっています。地獄に落ちた大勢の人間はみな裸で、釜ゆで、火炙り、殺傷、逆さ吊り、蛇地獄、など多種多様な攻め具で苛まれている地獄の状況が、活き活きと描かれています。

〇ブオナミーコ・ディ・マルティーノ、通称ブッファルマッコ
（Buonamico di Martino da Firenze）　（Buffalmacco）(1262-1340)

生年も没年も不詳です。ヴァザーリの著書でも、本人と同定できる十分な史料がありません。
ジョット（Giotto）を継ぐ世代として位置付けられています。
フィレンツェの生まれで 14 世紀初期までフィレンツェで制作活動をしています。
その後アレッツォ（Arezzo）、パルマ（Parma）、ピサ、に移り制作活動を行ったとされています。
パルマの洗礼堂で「聖ジョルジョ」のフレスコ画を描いたのが 1330 年ころと推定されています。
その後ピサに移り、「死の勝利」などのフレスコ画作成を行っています。

当時としては長命ですが、作者の作品と同定される作品が少なく、謎の多い人物です。フィレンツェの救済院で死去しています。
なお、ボッカチオのデカメロン(Decameron)には同名の陽気な画家が登場しています。

ピストイア　：
Pistoia

ジョヴァンニ・ピサノ
Giovanni Pisana

フィレンツェの北西約 80 キロメーターに位置した小さな街です。フィレンツェから鉄道を利用すると 40 分ほどで到着します。
街の歴史は古く、紀元前のローマ時代から街道沿いの植民都市として存在していました。ランゴバルド王国でも重要な地位を占めていました。12 世紀から 13 世紀の都市間の抗争時代には神聖ローマ帝国皇帝側(Ghibelline)に与していましたが、ローマ教皇側（Guelph）のフィレンツェに征服されることになります。1530 年に、メディチ家がフィレンツェに戻った以降は、完全にトスカーナ公国の支配下に組みいれられています。
南東に城があり、城壁が街を囲んで存在していました。現在でも 14 世紀に建造された城壁を見ることができます。小さな町の割には数多くの聖堂が残っており、中世から豊かだったことが窺い知れます。
街の中心にある大聖堂前のドゥオーモ広場では、午前中は市が立っています。大聖堂の左側には高い鐘楼が建ち、大聖堂の東側には市庁舎(Palazzo del Comune)が接して建っています。大聖堂の西側には八角形の洗礼堂があり、洗礼堂の北隣は裁判所で、大聖堂の対面にはシエナの名門パスキ銀行(Monte dei Paschi di Siena)がある、という宗教界と俗界の建物がこの広場の四方を囲んでいます。

〇聖堂
◇大聖堂　（Cattedrale di San Zeno ）

10 世紀初めに建設されましたが、1108 年に火災で焼失し、12 世紀に再建されています。正面には三層のアーチが左右対称に並ぶピサ・ロマネスク(Pisa-Romanesque)様式の建物で、白と緑の大理石で縞模様に装飾され、開廊部の中央扉口の上のティンパヌムにはテラコッタ製の聖母子像があります。切り妻屋根の左右端には聖ゼノと洗礼者聖ヨハネ像が置かれています。
左側にある鐘楼(Campanile)は高さ 67 メーターもあり、下部の堅牢さとは異なり、上部

はアーチがリズミカルな軽やかさを醸し出しています。
聖堂内は三廊式で、アプシスには「キリストの変容」画が飾られ、左右に聖ゼノと洗礼者聖ヨハネの像が立ち、天蓋は華やかなバロック様式です。

左手にあるキリストの磔刑の板絵は 13 世紀のマルコヴァルド（Coppo di Marcovaldo）作で、キリストの周囲に「キリストの捕縛」、「十字架降下」、「復活」などが描かれています。
右側廊にあるヤコブ礼拝堂（Cappella di San Jacopo）には 1287 年に制作が開始された後、拡張を重ね、2 世紀と言う長い期間を掛けて 1401 年にブルネレスキ（Brunelleschi）が完成させた、精巧な銀製の祭壇飾り（Dossale di San Giacomo）があります。
最下段はキリストの生涯が 15 面に彫られ、中層には聖ヤコブが中央に座り、周囲には聖母子と聖使徒の彫像が並んでいます。最上段には荘厳のキリストが天使に囲まれて坐し、左右には大天使ガブリエルと聖母像が見られます。
中央祭壇の右手には三面祭壇画と上には復活したキリストを囲む聖使徒のフレスコ画があります。
地下祭室はキリストの磔刑像が飾られただけの簡素で質素な祭壇があります。

◇洗礼堂　　Battistero di San Giovanni in Corte

大聖堂の対面にある八角形の洗礼堂は 14 世紀の建造で、伝承では、ピサノ父子が設計に携わったと言われています。
白と緑の大理石の縞模様で全面が覆われた綺麗な造りです。
洗礼堂の中央には全身潜水式の洗礼盤が置かれ、壁の一面をへこませた正面祭壇には金の柱で飾られ、キリストの磔刑を見上げる聖母と聖ヨハネが描かれています。洗礼者聖ヨハネの立像彫刻が置かれているほかに飾りは無く、外面の華やかさとは異なり、内壁は天井に向けて装飾は無く煉瓦が見えています。

◇聖ヨハネ聖堂　San Giovanni Fuoricivitas

街の中央に在る大聖堂から見て南に位置し、名前の通り旧市壁の外にあった聖堂ですが、現在ではお洒落な店が並ぶ、大通りのカブール通り（via Cavour）に面しています。
三層式で白と緑色の縞模様の大きな聖堂は、現代建築として見ても新鮮で、周りの環境に溶け込んでいます。

中層部にはアーチが規則正しく並び、内側の菱形内の模様は一つ一つが異なり、柱頭飾りもアーカンサスだけではなく、中に人面や、奇怪な動物など変化に富んでいます。最上層の一回り小さなアーチは建物を軽やかに、天に向けて上昇する印象を与える効果を生んでいます。側面の飾りを良く見てから聖堂に入ることをお勧めします。

なお、現在の扉口は大通りに面した側面の丁度真ん中にあり、扉口の上の楣石には最後の晩餐の浮彫があります。ティンパヌムには中央に聖ヨハネが立ち、左手には人に襲い掛かるライオンと右手には羊を襲うライオンの彫刻があります。聖堂内は単廊式で、アプシスにはステンドグラスが、主祭壇にはキリストの磔刑が飾られています。中央に置かれている、聖水盤の上部の枢要徳を表す彫刻の部分がジョヴァンニ・ピサノの作とされています。

ロマネスク様式の聖堂独特の壁の厚さと窓の小ささから採光は充分には取り入れられていません。

◇聖アンドレア聖堂　　Sant'Andrea

聖堂の正面は白と緑の縞模様で飾られ、三箇所の扉口の脇のコリント式の柱頭飾りの有る丸柱が五つのアーチを支えるロマネスク様式の聖堂です。

正面扉口上の楣石には１６世紀初頭に作成された「東方三王の礼拝」を描いた浮彫が見られますが、この題材を描いた浮彫はきわめて珍しいものです。ティンパヌムには中央に聖アンドレアの立像があり、左右に人と想像上の動物を襲うライオンの彫刻が見られます。

聖堂内は三廊式で、左右に並ぶ円柱の柱頭飾りは一つとして同じものはありません。

正面主祭壇にはヴォルト・サント（Volto Santo）型の着衣のキリストの磔刑像が置かれ、アプシス上の半円蓋部分には 12 世紀頃の、荘厳のキリスト像が描かれています。

左側の説教壇は、ピサノが 4 年の歳月を掛けて 1301 年に完成させた傑作です。

説教壇の囲いには「受胎告知と生誕」「東方三王の

礼拝」「嬰児虐待」など 5 場面の浮彫彫刻がありますが、特に「最後の審判」は当時既に評判の高かったオルヴィエートの大聖堂の浮彫以上の作品を作成する意気込みが有ったことが記録されています。説教壇の円柱はライオンと人と鷲が支えています。
なお、聖アンドレア聖堂の他、聖ピエトロ聖堂、聖バルトロメオ聖堂は、その正面から見た構造や白と緑色の大理石を使った装飾方法、説教壇の構造など非常に類似しています。代表的なロマネスク様式の聖堂です。

〇ジョヴァンニ・ピサノ（Giovanni Pisano）(1250-1315)
ピサの出身で、父親のニコラ・ピサノ（Nicola Pisano）の下で彫刻を修業しています。父親と共に当時最大の彫刻家として名をとどろかせています。
シエナ大聖堂の説教壇を父親と共に手掛けた後、ペルージャ（Perugia）では大噴水（Fontana Maggiore）1278 年を制作しています。ピストイアの聖アンドレア聖堂の説教壇を 1301 年に完成させた後、ピサに移り、ピサ大聖堂の説教壇を 1310 年に完成させています。
ピサの説教壇は一回り大きく、８場面の浮彫彫刻には「受胎告知」「降誕」「嬰児虐殺」「受難」「磔刑」「最後の審判」などが見られます。

シエナの説教壇

ピサの説教壇

パルマの噴水

プラートとスポレート：

Prato　　Spoleto

フィリッポリッピ

Fra Filippo di Tommaso Lippi

〇Prato

プラートはフィレンツェの西に位置し、鉄道を利用すると 30 分ほどで到着します。フィレンツェに先行して織物産業が発達しましたが、フィレンツェの経済力に対抗できず、結果的にフィレンツェの支配下に入っています。

街には 13 世紀に神聖ローマ皇帝フリードリッヒ 2 世により建設された城（Castello dell'Imperatore）があり、この城を東端として城壁が建設されました。その後 14 世紀に川沿から駅迄を含む一回り広い城壁が建設され、二重の城壁に囲まれた街となっています。外壁は現在でも見られますが、内側の城壁跡は一部が残っているだけです。

プラート出身の大商人の、ダティーニ（Francesco di Marco Datini）邸が博物館になっています。膨大な量の書簡が残されていることで、小切手や約束手形が既に使用されていたことが判明したことなど、当時の経済活動が良くわかるだけでなく、当時の社会生活までが分かる貴重な史料となっています。当時の商人は予想以上に遠くまで商いに出かけていたことも分かります。

現在市立美術館に収容されている、「聖母子と聖人」（Madonna del Ceppo）は、フィリッポ・リッピ、1452 年の作品で、ダティーニとその四人の顧客が左下に小さく描かれています。

また市庁舎広場（Piazza del Comune）にはダティーニの像もあります。

プラートの大聖堂には、ピサノが制作した「聖母子像」もありますが、圧巻は大画面に描かれたフィリッポ・リッピのフレスコ画です。

◇大聖堂　　Duomo　　(Santo Stefano)

街の中央にある、ロマネスク・ゴティック様式の大聖堂ですが、

最初は 5 世紀から 7 世紀に掛けて建設されたと思われます。
正面はカルヴァナ（Calvana）産の白い大理石とモンフェラーノ(Monteferrano)産の緑の石が階層状に積み上がり左右のバランスの均衡もとれて、堂々たる大聖堂の印象を強めています。
扉口の上のティンパヌムには白焼きのテラコッタ製の天使が囲み聖人が脇侍する聖母子が掲げられています。
聖堂の正面右手の隅に、聖堂の外の民衆に向かって説教をした説教壇があります。
1434 年から 38 年に掛けてミケロッツォ(Michelozzo)が制作したもので、円形の周囲はドナテッロ（Donatello）作の踊る童子達の浮彫で飾られており、上には傘状の天蓋が懸かっています。
脇壁は 1160 年に改造されて、見事に装飾された柱廊のある扉口が 2 箇所追加され、その脇には 13 世紀に建設された鐘楼が建ち、アーチ型の窓枠が白と緑で放射状に仕切られた飾りが見られます。
聖堂は三廊式で、聖使徒を表す、12 本の円柱が白と緑の縞模様のアーチを支え、ロマネスク様式特有の柱頭飾りも見られます。

入ってすぐ左側にバルトロメオ（Maso di Bartolomeo）作成の「聖母の聖帯を祀る礼拝堂」（Cappella del Sacro Cingolo）があり、祭壇には、聖母の聖帯を収納した聖遺物容器が納められており、上にはピサノ（Giovanni Pisano）作、1312 年、の大理石の聖母子像を見ることができます。この聖帯は聖母被昇天の際に聖トマスに授けたものとされ、1141 年に聖地からダゴマリ(Michele Dagomari)がプラートに持ち帰ったとされています。
正面にはガッディ（Agnolo Gaddi）作の「聖母被昇天と聖帯の授与」が描かれ、天井には四人の教会博士と福音書記者が、脇には受胎告知他のフレスコ画が色鮮やかに残っています。
内陣の右手にフィリッポ・リッピ作の「洗礼者聖ヨハネの生涯の物語」と「聖ステファノの生涯の物語」がフレスコ画で描かれています。
「洗礼者聖ヨハネの物語」では、上部に、「荒野で祈る洗礼者聖ヨハネ」が描かれ、その下に、「ヘロデ王の饗宴」の場面が描かれています。
左端には斬首された洗礼者聖ヨハネの首が描かれ、中央には踊るサロメが、そして右のテーブルの前には、盆の上に載せられた洗礼者聖ヨハネの首を持つサロメ、の三場面が

一枚に収められています。

「聖ステファノの物語」では、「聖ステファノの出立」、民衆の投石により殉教する、「聖ステファノの殉教」、「聖ステファノの埋葬」が順に描かれています。

〇Spoleto

スポレートは、ローマから鉄道を利用した場合、2 時間ほどで着きます。フィレンツェからも直行便が有りますが、3 時間以上かかります。

旧市街は丘の上にあり、駅からはバスを利用して 1 キロほど、坂道を登って行くことになります。

城壁で囲まれており、現在でもその多くが見られます。

旧市街の中では、どこに行くにも坂道を登ったり降りたりすることになります。直線の道はマッティーニ通り（Corso Mattini）以外にはなく、見通しが悪い上に、主要道路は交叉していません。曲がった坂道、階段が多くて接続が悪く、地図を持っていても場所の確認に難儀します。

スポレートの街の歴史は古く、ローマ帝国時代には存在しており、その遺跡を見ることができます。

テッシーノ（Tessino）川を渡り、旧市街に入ると大きな円形劇場の遺跡（Anfiteatro Romano）が見られますし、旧市街を登って、中央部に在るリベルタ広場(Piazza della Liberta)には半円形の劇場跡（Teatro Romano）があります。このような大型の遺跡の他に、ローマ帝政時代の柱を建物の一部に活用していたり、ローマ帝政時代からの噴水や、門が街中にあったり、とローマ帝政時代の遺跡を街中に多く認めることができます。570 年以降はロンゴバルド王国の中でも、重要なスポレート公国の支配が 774 年まで続き、

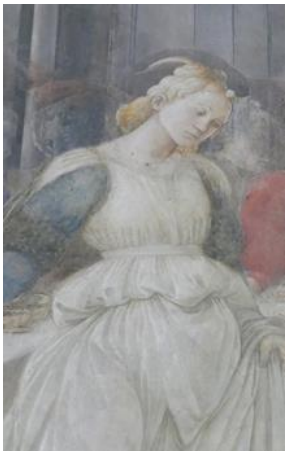
その後神聖ローマ帝国領、ローマ教皇領と変遷しています。
古代と中世が現代に違和感なしに繋がり、共存している古都と言えるでしょう。
街の一番高い所に位置するアルボルノツィアーナ城（Rocca Albornoziana）は 14 世紀に枢機卿の居住城として建設されています。城まではポンツァニーナ門（Porta Ponzianina）の近くから、長いエスカレーターがあります。

◇大聖堂　Duomo　(Santa Maria Assunta)
1175 年から 1227 年に掛けて、初期キリスト教の聖堂があった跡にロマネスク様式で建造されています。左脇の鐘楼は 13 世紀の建設で、正面下部の柱廊は 15 世紀に追加されています。中層には薔薇窓が 5 箇所見えますが、中央の一際大きな薔薇窓の四隅には福音書記者の表象が配置され、上層には薔薇窓が 3 箇所シンメトリーに並び、中央にソルステルノ作（Solsterno）1207 年、の金色に輝く玉座のキリストのフレスコ画が見えます。

聖堂内は三廊式で床以外は 17-8 世紀に改修されています。
正面の中央祭壇奥のアプシスにはフィリッポ・リッピの「聖母の御眠り」が中央に描かれ、左に「受胎告知」、右に「キリストの降誕」が、その上の天蓋部分には「聖母戴冠」が色彩鮮やかに描かれています。
なお、「聖母の御眠り」の上方を見ると、円形状に修復された跡が見えますが、以前には「聖帯授与」が描かれていました。聖トマスと思われる人物も

見えます。なお、右端から四人目の黒い帽子をかぶる人物は画家の自画像と見做されています。
フィリッポ・リッピの墓は聖堂右手の壁にあります。画家の上半身が載る墓は息子のフィリッピーノが作成したものです。

〇フィリッポリッピ　（Fra Filippo di Tommaso Lippi ）（1406-1469）
フィレンツェで生まれ、プラートで活躍し、スポレートで没しています。早くして孤児となったため、カルミネ修道会で育成され、15 歳で誓願を立てて修道士となっています。
近隣のサンタマリア・デル・カルミネ聖堂（Santa Maria del Carmine）のブランカッチ礼拝堂に、マッゾリーノ（Masolino da Panicale)とマザッチョ（Masaccio 本名 Tomma di Ser Giovanni di Mone Casi）が共同して描いた「聖ペテロの生涯」があります。
この作品はルネサンス絵画を代表する作品で、レオナルド・ダ・ヴィンチ、ミケランジェロやラッファエッロといった大画家たちも若い頃に足しげく通ったと言われています。
フィリッポ・リッピもこの大作の影響を受けて、画家の道に進み、パドヴァ（Padova）のサント（Il Sant）でフレスコ画を描いています。
その後、プラートに招かれ、大聖堂の祭壇画を描くことになります。プラートに滞在中、修道女ルクレチア（Lucrecia Buti）と駆け落ちをして、コジモ（Cosimo da'Medici）の仲介で、還俗が承認されるなどの逸話を残しています。
ルクレチアは「洗礼者聖ヨハネの生涯」のサロメ、フィレンツェの「リッピナの聖母」などのモデルとされています。
息子がフィリッピーノ・リッピ（Filippino Lippi）で、サンタマリア・デル・カルミネ聖堂に「天使により牢から解放される聖ペテロ」「審問される聖ペテロと聖パウロ」「聖ペテロの磔刑」を残しています。



サンジミニャーノ　：
San　Gimignano

ベノッツォ・ゴッツォーリ
Benozzo Gozzoli
リッポ・メンミ
Lippo Memmi

トスカーナ地方にある小さな街です。街に鉄道は通っていません。
フィレンツェ もしくは シエナから鉄道でポッジボンシ(Poggibonsi)迄行き、そこからバスに乗り継いで行くことになります。

フィレンツェから多くの日帰りバスツアーが組まれていますし、シエナからはバスで往復が可能です。いずれにしても片道 1 時間半程度かかります。
街は城壁で囲まれていますので、街に入るには城門を通ることになります。現在でも 5 箇所の城門が残っています。バスは街の南端に到着しますので、サンジョバンニ門(Porta San Giovanni)をくぐって旧市街に入ることになります。
狭いサンジョバンニ通り（via San Giovanni）の両脇には昔からの格調の高い建物が続きますが、お土産屋さんも軒を連ねており、門前町の様な華やかさも併せ持っています。
ベッチ（Arco dei Becci）門を通るとチステルナ広場（Piazza della Cisterna）に出ます。井戸を中心にした広場で 12 世紀から 13 世紀の建物が周囲を囲んでいます。次いで大聖堂のあるドゥオーモ広場に出ます。
サンジミニャーノは塔の街として名を馳せています。

現在でも 14 を数える塔の存在を認めることが出来ますが、9 世紀から 14 世紀に掛けて、街の全盛時代には塔は富の象徴でもあり、富を誇る商人や名声家は競って塔の建設に励み、街の至る所に塔が林立していたと言われます。
城（Rocca di Montesraffoli）は街の中心に在る大聖堂の西側の丘上にありますが、現在は城壁の一部を残すだけとなっています。
ローマと北部イタリアを結ぶ街道の街として繁栄した富と名声も、街道がサンジミニャーノを通ることが無くなった途端に、

もろくも崩れ去ったのでした。
現在では中世のまま取り残された姿が観光の対象となっており、歴史の皮肉とも言えるでしょう。

〇聖アゴスティノ聖堂　　(San'Agostino)
街の中央にある大聖堂を過ぎて、坂道を北上して行きます。街の北の端に位置しています。
扉口は一箇所で、上には丸窓があるだけで装飾のない、ロマネスク様式の聖堂です。右手奥には鐘楼があります。聖堂内は単廊式で、中央主祭壇にはピエロ(Piero del Pollaiuolo)作の「聖母戴冠」の大きな祭壇画が飾られています。
主祭壇の奥の後陣には正面と左右両壁に、ゴッツォーリが制作した「聖アゴスティノの生涯」のフレスコ画が色鮮やかに残っています。天井には四大福音書記者がその表象と共に描かれています。
フレスコ画は 17 枚より構成されています。
◇「聖アゴスティノの生涯」
下段の七枚
左面の最初は幼少時のタガステ(Tagaste)での学校生活が描かれます。次いでカルタゴでの大学卒業と続き、母に暇乞いをして自宅を出てローマに向かい、ローマで講義を行い、更にミラノに向かうところまでが下段に描かれています。

左側面

右側面

（右面下 7）拡大（右端は自画像）

中段の六枚
ミラノに到着後は、聖アンブロージョと面会して洗礼を受け、キリストの出現で聖三位を認識し、自身の修道会の戒律を示し、聖モニカの死去までが中段に描かれています。
上段の四枚
左右面に信者を祝福する聖人と聖人の死が描かれています。
一枚の大きさは 220x230cm ですが、最上段の左右面の二枚は横幅が倍の大きさになっています。

◇「聖セバスチャンの殉教」

聖堂の左側面に掲げられています。現在の聖堂は右側面の扉口から入りますので、聖堂に入ると正面に見ることができます。

フィレンツェからペストを避けてサンジミニャーノに避難したものの、サンジミニャーノでもペストが蔓延したことから、聖セバスチャンが描かれることになりました。

平然と矢を受ける聖セバスチャンの姿に、飛んでくる矢のように突然襲いかかるペストの災を重ね合わせ、ペストの守護聖人として、身の安全と病の終焉を祈願したのです。

しかしながら、この祭壇画では伝統的な図像学上の描き方と異なり、聖セバスチャンの体に矢は刺さっていません。また正面を向いて着衣しています。とても聖セバスチャンが描かれているとは思われません。

この祭壇画を作成するにあたり、聖アゴスティノ聖堂の司祭で学者のストランビ（Fra Domenico Strambi）　から指導を受けているとされています。

なお、この祭壇画とは別に、主祭壇の後陣の「聖アゴスティノの生涯」が描かれている左側面の正面壁には、伝統に従って腰布姿で多くの矢が体に刺さった聖セバスチャンが描枯れています。

大聖堂の中央主祭壇の「聖セバスチャンの殉教」も伝統に則った表現になっています。撮影は禁止されています。

〇ベノッツォ・ゴッツォーリ（Benozzo Gozzoli）(1421-1497)

フィレンツェで生まれ、フラ・アンジェリコの下で修業をしています。次いでギルベルティー（Lorenzo Ghibelti）の下で、洗礼堂の扉の「天国への門」を手掛けた後、師の下に戻り、師と共に、エウゲニウス教皇（Eugene IV）時代のローマで制作活動をした後、オルヴィエトで大聖堂のフレスコ画を手掛けています。

フィレンツェではリカルディ宮殿（Palazzo Medici Riccardi）に画家の最大の傑作とされる「東方三王の訪問」1459 年、を描いています。

フィレンツェにペストが流行り、サンジミニャーノは高地で患者が居なかったことから、1464 年にサンジャミニャーノに避難し、4 年間滞在しています。滞在期間中に聖アゴスティノ聖堂に「聖アゴスティノの生涯」と「聖セバスチャンの殉教」のフレスコ画を作成し、大聖堂の中央主祭壇に、「聖セバスチャンの殉教」を作成しています。なお、市庁舎に掲げられていたメンミ（Lippo Memmi）作の「荘厳の聖母子」を修復しています。

その後ピサのカンポサント（Camposanto）の北回廊で旧約聖書を元にしたフレスコ画を制作した後、ピストイア（Pistoia）で死去しています。

市庁舎

〇リッポ・メンミ　　（Lippo Memmi）(1291-1356)

シエナで生まれ、画家の父親の下で修業しています。1317 年に父親と共にサンジミニャーノの市庁舎に「荘厳の聖母子」(Maesta)のフレスコ画を描いています。この作品の構図はその 2 年前にシエナの最大の画家の一人、シモーネ・マルティニ（Simone Martini）がシエナの市庁舎に描いた「荘厳の聖母」と類似していることから、追随者と呼ばれることがあります。なおシモーネ・マルティニは 1324 年に義兄になっています。

アッシジの聖フランチェスコ聖堂でも義兄と共にフレスコ画を制作しているほか、フィレンツェでも共同作業を行っています。オルヴィエト（Orvieto）の大聖堂に作品を納めた後に、義兄と共に教皇庁のあったアヴィニヨンに出向いています。

シエナでは多くの祭壇画を制作していますが、義兄と共に作成したものも含まれています。多くの画家がペストで死去する中、シエナを代表する国際ゴティック様式の画家となっています。

大聖堂の「庇護の聖母」
（Madonna dei Raccomandati）

聖アゴスティノ聖堂の「聖母子」
（Madonna del Latte）

荘厳の聖母子

トレヴィゾ　：
Treviso

トマソ・ダ・モデナ
Tomaso Barisini　（Tomaso da Modena）

ローマ時代には多くの街道が建設されています。
ローマから南下してアドリア海に面したブリンディシ（Brindisi）まで延びるアッピア街道や、ピアチェンツァ（Piacenza）から東に向かいポー（Po）川の流れに沿ってリミニ（Rimini）まで伸びるエミリア（Emilia）街道など四方八達に亘り街道が建設されていました。
ポスツゥミア街道（Via Postumia）もその一つで、ジェノヴァ（Genoa）からピアチェンツァを経由し、アキュレイア（Aquileia）に至る街道です。トレヴィゾはこの街道に近接する街として存在した古い街です。ただし、街中にはローマの史跡は存在していません。
現在の大聖堂やシニョーリ広場（Piazza dei Signori）が在る周囲は運河で囲まれた中洲のような地域になっていますが、この狭い地から街は始まっています。西ローマ帝国の滅亡後は、ビザンティン帝国の総督府があったラヴェンナ（Ravenna）に支配され、次いでロンゴバルド王国の支配を経ています。

12 世紀にはロンゴバルド同盟に属して神聖ローマ帝国と戦い、平和条約締結後はカミノ家（Da Camino）の元で、繁栄を築いていました。街の発展に従い東側が拡張されて、現在の東西に流れるカニャン運河（Cagnan Grande）にまで広がっています。運河には島になっている魚市場（Isola della Pescheria）があり、街の台所になっています。
街の中央に在る、シニョーリ広場にはトレチェント宮（Palazzo dei Trecento）が在り、現在市庁舎と議会場になっています。13 世紀の建設で、名前の通り 300 人が入れる広さの会議場です。騎士の館（Loggia dei Cavalieri）も 13 世紀に建設されたロマネスクとビザンティン様式の混合した建物です。その後、近隣のパドヴァ（Padova）のカッラーラ家（Carrara）やヴェローナ（Verona）のスカリゲリ家（Scaligeri）などの有力な領主との抗争に消耗し、14 世紀半ばにはヴェネチア共和国の傘下に入

っています。14 世紀になると更に街全体が膨張し、16 か所に城門が建設されていますが、現在ではその門は道路の拡張により撤去されて、ほとんど見ることができません。ベネトン(Benetton)やジオックス(Geox)、デロンギ（De'longhi）などイタリアの有名ブランドの本部がある街です。この街にゆかりのある画家はトマソ・ダ・モデナです。

〇聖堂

◇聖ニコロ聖堂　　San Nicolo

14 世紀に建設された城壁の西南の端で、シーレ川と運河で区切られた城壁の内側にあります。

聖堂は長さ 88 メーターを超え、トレヴィゾの大聖堂よりも大きく、広い回廊を維持しています。

1231 年に、ドメニコ派の聖堂として建設されています。その後巨額の資金を得て、拡張を続け、ロマネスク・ビザンティン様式とフランス・ゴティック様式を融合させた造りになっています。

194 代ローマ教皇となったベネディクト 11 世（1303 年）はこの聖堂の出身者です。

身廊には聖十二使徒を表す太い十二本の円柱が並び、高い天井を支えています。左右の側廊には五個所祭壇があり、右側廊の高い位置に置かれたオルガンには 194 代ローマ教皇ベネディクト 11 世の生涯が描かれています。周辺に聖母子と聖人などのフレスコ画が見られます。

この聖堂で注目すべきは太い柱に描かれたフレスコ画です。

身廊の左側の二番目の柱には、モデナ作の「聖ロムアルド（San Romuald）・書斎の聖ヒエロニムス・洗礼者聖ヨハネと聖アグネス」が描かれています。

右側の三番目の柱にはモデナの弟子の描いた「聖クリストフォロス・聖ニコロ」があります。

その他の柱にもフレスコ画が描かれています。

聖堂をいったん出て右側面に接する修道院の回廊に進み、二番目にある部屋（Chapter house ）に入ると、キリストの磔刑図とともに、モデナが 1351 年から 1352 年に作成したドメニコ派の 40 人の聖職者の肖像画が並んでいます。

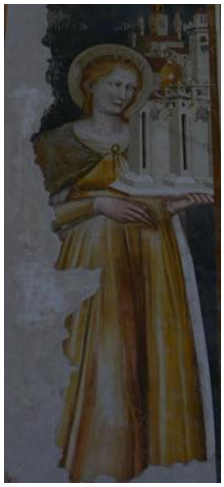
185 代ローマ教皇のインノケンティウス 5 世（1225 年）の次にはベネディクト 11 世教皇が描かれ、その他に、書物を読みふける枢機卿や机に向かい筆を走らせる聖職者、思

索にふける聖職者が同じスペースの中で軽快な筆致で、しかも個性豊かに描かれています。その中の一人に、ウーゴ枢機卿（Hugues de San Cher）が居ます。この枢機卿は眼鏡を掛けて描かれた、最初の人物とされています。

◇聖カテリーナ聖堂　　Santa Caterina dei Servi di Maria

シニョーリ広場から東に向かい、カニャン運河を渡り、サンタ・カテリーナ通り（Via Santa Caterina）を進むと、市立博物館（Musei Civici di Treviso）に突き当たります。この館は 13 世紀末にカミノ家（Da Camino）の宮殿として建設されました。14 世紀になり、聖母マリアの使僕会により修道院となりましたが、変遷を経て、市立博物館になっています。この、市立美術館にはモデナの「キリスト」が収容されています。

聖母マリアの使僕会の修道院に併設してアレキサンドリアの聖カテリーナを奉献して設立されたのが聖カテリーナ聖堂です。聖堂は現在美術館（Museo Santa Caterina）になっており、聖堂としての役割は果たしていません。



聖堂内は単廊式で、祭壇は三か所有ります。側壁には剥離したフレスコ画が部分的に残っており、受胎告知、聖母子と聖人、聖エリジョ（Sant'Eligio）の奇跡、などが見られます。

聖堂を手にした「聖カテリーナ」はモデナの作品です。

この聖堂の主祭壇にはモデナ作の「聖オルソラ（Sant'Orsola）の生涯」を表すフレスコ画が収められていました。聖堂の中央主祭壇には聖母子、聖オルソラの栄光、キリストの磔刑が縦に描かれており、左側面には受胎告知の下に聖オルソラのイングランドからの出発、聖オルソラと 11000 人の処女のローマへの出帆、聖オルソラとローマ教皇との面談、ローマからの出帆、ケルン到着など六枚のフレス

コ画が縦二列に並び、右側面には、聖オルソラの許嫁の洗礼、ローマ教皇の夢、など四枚と一番下には倍の大きさのある聖オルソラと 11000 人の処女の殉教、の画面がありました。

現在これらのフレスコ画は壁から剥がされて、聖堂内に展示されています。すべてが完全な状態ではなく、作品の一部のみのものもありますが、モデナの傑作を目近に見ることができます。

◇聖フランチェスコ聖堂　　San Francesco

主祭壇の左側のジャコメッリ祭壇（Giacomelli）に、モデナの描いた「聖母子と聖アントニオ・聖カテリーナ・聖ロレンツォ・洗礼者聖ヨハネ・聖ルイ・聖ヤコブ・聖クリストフォロス」の 7 人の聖人が並んだ大きなフレスコ画が掲げられています。

〇トマソ・ダ・モデナ（Tomaso Barisini）（1325/1326-1379）

通称：Tomaso da Modena

名前の通り、モデナ（Modena）の生まれで、主としてボローニャ（Bologna）で修業しました。ボローニャ派の画家の一人で、聖ニコロ聖堂で制作活動をしていたころ、ヴィターレ・ダ・ボローニャはウーディネの大聖堂でフレスコ画を制作していました。

1352 年から 5 年間ボヘミアに行き、カール 4 世の統治下のカールシュタイン（Karlstein）に滞在したほかは、主として、モデナやマントヴァ（Mantova）など、北イタリアで活躍しています。

1360 年に結婚したことが分かっていますが、多くのことは不明です。ここトレヴィゾに多くの傑作を残しています。

ウーディネ：

Udine

ティエポロ

Giovanni Battista Tiepolo

フリウリ（Friuli Venezia Giulia）地方の町です。イタリア東北の端に位置しています。東隣のスロベニア共和国までは 20 キロメーターほどです。ヴェネチアから北東に向かって鉄道で約 2 時間。トリエステからは西北に向かって 1 時間ほどの距離にあります。この地方の歴史は古く、新石器時代から人が住んでいたとされ、後には現在のクロアチア地方に古代ギリシャ・ローマ時代に存在したとされるイリュリア（Illyria）国からの人が多く移り住んでいたとされています。

紀元前に北方からの民族の侵略を阻止するため、ローマは軍事基地として、アクィレイアを建設しました。その後植民が進み、繁栄を誇りましたが、4 世紀以降は数度にわたり北方蛮族の侵略を受けています。アクィレイアの総主教(Patriarch di Aquileia)もアクィレイアからグラード（Grado）に避難しています。その後宗教上の抗争を経て、アクィレイア総主教座はロンゴバルド王国のフリウリ公の保護を受けて、グラードからチヴィダーレ・デル・フリウリ（Cividale del Friuli）に移っています。

神聖ローマ帝国のオットー2 世はアクィレイ総主教に、ウーディネの土地を献上しています。

これは 983 年のことでウーディネが歴史に初めて登場するときです。

城への道

ウーディネという地名にはイタリア語的な響きがないために、スロベニア語系説や、アッティラ（Attila）がアクィレイア（Aquileia）攻略の際にこの地に丘を作らせたことから丘を意味するハンガリー語を語源とする説等、諸説あります。

その後、総主教座がチヴィダーレ・デル・フリウリからウーディネに移されたことで宗教の中心地となり、13 世紀には市場の開設が許可され、経済的な発展も始まりました。

1420 年にヴェネチアに征服されてしまいます。

鉄道の駅は街の南端に在り、街は北に向かって広がっています。方形に囲まれた城壁都市で、街の中心に在る小高い丘の上に城が在りますが、全体として平らな街です。現在の城はロンゴバルド時代の砦が 1511 年の地震で崩壊した後、ヴェネチアによって建設されたもので、現在では市立博物館になっています。
この街の一大特徴は、ティエポロの作品が多く見られることです。

〇聖堂
◇大聖堂　　Santa Maria Annunziata
1236 年にアクィレイア総主教の指導のもとにラテン十字形で建設されています。1348 年の地震で崩壊した後再建されています。
聖堂内は三廊式ですが、その外側の両側に入口から四箇所礼拝堂が並んでいますので、実質五廊式になっており、正面から見ても横幅が広いことに気が付きます。
ティエポロの作品は以下のとおりです。
右側廊の最初の聖三位礼拝堂（Cappella della Santissima Trinita）には、「洗礼者聖ヨハネ」の作品が掲げられています。二番目の聖エルマコラとフォルテュナト礼拝堂(Cappella dei Santi Ermacora e Fortunato)では二人の聖人が並んで描かれています。この二人の聖人はアクィレイアの初代司教と助祭で、伝承によると西暦 70 年頃に殉教しています。街の守護聖人になっています。
四番目の秘跡礼拝堂（Cappella del Santissimo Sacrament）では「キリストの復活」の絵が見られます。

第一番目祭壇

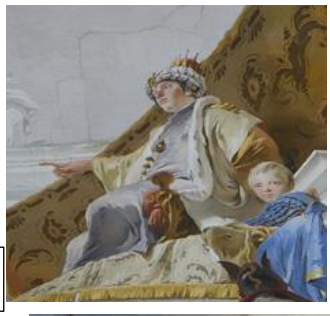
第二番目祭壇

第四番目祭壇

◇アクィレイア総主教の館　　（Museo Diocesanoe e Gallerie del Tiepolo）

①

街の中央にある、リベルタ広場（Piazza della Liberta）の東端にある噴水から北に向かうマニン通り（Via Daniele Manin）を進み、街で一番古い門（Porta Marin）をくぐると右奥にあります。


①

現在では美術として一般公開されています。

中世キリスト教に関連した祭壇衝立、板絵、聖母子像、聖遺物容器、多くの書籍などが展示されています。

②

その中でも圧巻は、広い側壁と天井一面がティエポロの描いたフレスコ画で埋め尽くされている部屋があることです。

③

旧約聖書からの、「①ソロモン王の裁定」、「②イサクの生贄」、「③アブラハムと三人の天使」、「④偶像を隠すラケル」、「ヤコブの夢」、「ハガルと天使」などが描かれています。

大画面で描かれている作品だけでなく、扉の周辺や天上の隅などの細かな部分にも「福音書記者」、「預言者」などの作品が見られます。色鮮やかに保存されており、傑作を堪能することができます。

④

◇サンタマリア・デラ・プーリタ聖堂　　（Santa Maria della Purita）

大聖堂の東側に位置し、正面はドゥオーモの南面に向いています。

16 世紀にパラッディオ（Andrea Palladio）により設計された聖堂です。

周囲の建物と比較しても小さな聖堂で、扉口は一か所のみで青銅の扉は閉ざされている場合が多く、開放される時間も不規則です。

聖堂内は単廊式で、主祭壇には聖母画が掲げられ、天井は「聖母被昇天」が描かれてい

ます。
この天井画は 1759 年にティエポロが描いたフレスコ画です。
なお、側面のグリザイユ画はティエポロの息子のドメニコ（Domenico）が 1760 年に描いた、「①キリストのエルサレム入城」、「キリストと博士の論争」、「②ダビデ王の勝利」、「アンティオキア王の前のマカベー一族」などで、八枚の絵が掛けられています。

①

②

〇ティエポロ（Giovanni Battista Tiepolo）
ティエポロはヴェネチアで生れ、マドリッドで没しています。（1696 年～1770 年）
ヴェネチア派伝来のバロックの壮大な躍動感とロココの明澄な光と色彩を融合させた 18 世紀最大のヴェネチア派の画家のひとりです。神話・宗教・肖像画を得意として、ヴェロネーゼ（Veronese）の再来と礼賛されています。ドイツのヴュルツブルグ司教館の天井画の他、仰視法で描かれた多くのフレスコ画に見られるように、常に生命の喜びを感じさせ、知覚的な幻惑と感触的な魅惑にあふれています。
速筆であるばかりでなく多作でしたので、多くのフレスコ画やキャンバス画を残しています。
1726 年にアクィレイア総主教のディオニシオ（Dionisio Dolfin)の依頼を受けて、ウーディネに来ています。大聖堂の祭壇画を作成したほか、総主教館にも多くのフレスコ画を残しています。

ヴェローナ：
Verona

ピサネロ
Antonio di Puccio Pisano

ミラノとヴェネチアの丁度半ばにある大きな街です。ミラノからは急行を利用すると 1 時間半ほどで着きます。ヴェネチアからも同じ位の時間がかかります。

ヴェローナは古くからアルプス越えをしてイタリアに入り、ジェノヴァやローマに向かう人々が通過する街で、交通の要所として繁栄してきました。アディージェ(Adige)川に三方を囲まれており、天然の要塞を呈しています。ローマ帝国時代には既に街として栄えており、その遺跡である円形闘技場（Arena）は現在でも屋外オペラ劇の会場として利用されており、特に夏は大盛況となります。

また、シェイクスピア劇の「ロミオとジュリエット」でおなじみのジュリエットの屋敷のある街です。
ジュリエットがロミオへの恋をささやいたバルコニーは大勢の観光客のお目当ての一つで、いつでも大勢の観光客で溢れています。庭にはジュリエットの青銅像が置かれていますが、ジュリエットの胸に触ると恋が成就するということで、胸は光り輝いています。
なお、「ロミオとジュリエット」の陰に隠れてしまっていますが、シェイクスピア劇には、他にヴェローナを舞台にした作品として、「ヴェローナの二人の紳士」（Two Gentlemen of Verona）と「じゃじゃ馬馴らし」（The Taming of the Shrew）の二つがあります。

〇聖アナスタシア聖堂　　（Sant’Anastasia）
旧市街の北東に、アディージェ川に面して建つ、ヴェローナで一番大きなゴティック様式の聖堂です。
正面には聖堂と同名の広場（Piazza Sant’Anastasia）があります。ドミニコ派により 1290 年からロマネスク様式で建設が始まり、16 世紀になって完成しています。

正面の扉口は近年になって修復されています。
中央には薔薇窓がありその脇に片蓋柱が走り、その外側には長い窓が見えます。ティンパヌムには聖三位一体のフレスコ画が飾られ、楣石にはキリスト降誕、キリストの磔刑の浮彫が置かれています。

聖堂は三廊式で、扉口を入ると身廊の両脇の柱の下に居る、聖水盤を支える人物像が訪問者を迎えてくれます。左側の背をかがめた人物は 1495 年作で、右側の人物はそれから百年後の 1591 年のオレフィーチェ（Paolo Orefice）作でパスキーノ（Pasquino=イースター）と呼ばれています。12 本のヴェローナ産の赤い大理石柱で支えられた高い天井は、フレスコ画で飾られています。
正面内陣の右側面には 14 世紀のサンゼノ・セコンドマスター（Second Master of Saint Zeno）作の「最後の晩餐」と左側面には 15 世紀のジャンボーノ(Giambono)作の「受胎告知」のフレスコ画が見えます。
正面の右端にあるカヴァーリ（Cavalli）礼拝堂には 14 世紀のアルティキェッリョ（Altichiero）作のフレスコ画と 15 世紀のマルティーノ（Martino da Verona）作の「聖母子像」の絵が見られます。
このように非常に多くのフレスコ画で飾られており、美術館にいるような錯覚に陥ります。
その中でも、正面主祭壇の右側にあるペレグリーニ（Pellegrini）礼拝堂の凱旋門アーチを見上げると、15 世紀のピサネッロ作の「聖ゲオルギウスと王妃」のフレスコ画が見えます。

ただし、余に高い所に描かれており肉眼では良く見えません。しかも天井からの雨漏りでフレスコ画がかなり傷んでおり、早急に修復が必要な状態になっています。なお、聖堂側の配慮で、通路脇に DVD でフレスコ画を写しだしています。
当時の貴族の華やかな衣装を身に纏った王女の見送りを受けて、龍退治に出かける聖ゲオルギウスもまた着飾っており、貴族の服飾や武人の甲冑などの武具の様子が認められます。また中央に二頭の馬が正面からと後ろから描かれていますが、

ヴァザーリ（Vasari）の「芸術家列伝」によると、ピサネッロが馬を好んで描いたのは、ウッチェッロ（Uccello）の影響とされています。下には数種類の犬も描かれています。背景にはヴェローナの街が描かれていると思われますが、聖堂や城のある街の間には荒地が広がり、良く見ると街外れでは二人が処刑されています。奥には帆船も描かれています。

〇ピサネロ　（Antonio di Puccio Pisano）　（通称：Pisanello）（1395-1455）
ピサで生まれ、ヴェローナで修業しています。特にジェンティール・ダ・ファブリアーノ(Gentile da Fabriano)について洗練された優雅な作風を学び、若くしてチマブーエ（ Cimabue）の再来と賞賛されています。また、紀元前のギリシャの偉大な芸術家のプラクシテレス(Praxiteles)になぞられる程の評価を受けていました。
ルネサンス初期に活躍した国際ゴティック様式を代表する画家で、ローマ(教皇)・ミラノ（ヴィスコッティ公）・マントヴァ（ゴンザーガ公）・フェッラーラ（デステ公）・リミニ（マラテスタ公）・の各宮廷を訪問してフレスコ画を手がけています。
特にマントヴァとフェッラーラで重用されて多くの作品と素描画を描きましたが、残念ながら多くの作品が失われています。

1430 年のフェッラーラでの公会議以降は特にメダルの作成に注力し、芸術メダルの創作者と見做されています。中でも傑作なのは、初めてイタリアを訪問した、東ローマ帝国皇帝（Giovanni VIII Paleologo）のメダルが残されています。（V&A Museum London　1438）

主要な絵画とフレスコ画
〇Madonna della Quaglia「カリアの聖母」1420　Museo di Castelvecchio　Verona
〇Torneo-Battaglia Louvezerp「ルーヴェツェルプの御前試合」 1426-26　Palazzo Ducale　Mantova　①はフレスコ画の原寸大の下絵（Synopia）です。
〇La Visione di Sant'Eustachio「聖エウスタキオの幻視」1436-38　National Gallery London　②
「聖ゲオルギウスと王妃」（または、「龍から乙女を救いに出立する聖ゲオルギウス」）

の壁画とほぼ同時代に描かれたと見做されています。幻想的な雰囲気の中に、犬・鹿・熊などの動物が細密画のように描かれています。

〇Ginebra d'Este　「ジネブラ・デステ 」1435-49 Museo del Louvre　Paris

〇Madonna tra i Santi Antonio Abate e Giorgio「聖母子と聖アントニオとジョルジォ」1445　National Gallery London　③

ヴィジェヴァノ　：
Vigevano

ベルナルディノ・フェラーリ
Bernardino Ferrari

ミラノのジェノヴァ（Genova)駅から始発の電車で 30 分ほど南下したところにある小さな町です。

1345 年にヴィスコンティ（Visconti）家のルドヴィコ・イル・モーロ（Ludovico il Moro）が建設した要塞を起源としています。その後、ミラノ公爵がスフォルツァ（Sforza）家に代わった後、周囲は狩猟場として位置付けられ、城は徐々に拡大されて宮殿へと変わっていきました。町は変形六角形の城を中心にしたほぼ円形の城壁で囲まれています。城壁内の通りは曲がっており、複雑に交叉しています。

〇城への通路

幅 7 メーター、長さ 164 メーターある、なだらかな坂になっている屋根付きの通路（Strada Coperta）で、丘の上にある城に直接入れるようになっています。騎馬したまま、もしくは馬車に乗ったままで、城に入っていけるように工夫されています。奇妙なことに、その坂道の下にはアーチ状の屋根で補強されたトンネル状の平らな通路（Sotterranee）が町中まで続いています。

このように城主用の通路と庶民の道が上下の二重構造になっている例は他の欧州の城では見られません。

城の北側にあるドゥッカーレ広場（Piazza Ducale）は、横 134 メーター、縦 48 メーターも有る広さです。レオナルド・ダ・ヴィンチの立案を元に、ブラマンテが設計したという、歴史的にも見ごたえのある広場です。広場は 84 本

の円柱で周囲を取り囲まれており、円柱が構成するポルティコ内には瀟洒な店が並んでいます。町のシンボルでもある、ブラマンテ作の 64 メーターの高い塔(Torre Bramante)の上からはアルプス山系が望めます。

〇聖堂

◇大聖堂　　(Cattedrale di Sant'Ambrogio)

大聖堂の前には街の中心の、ドゥッカーレ（Piazza Ducale）広場があり、大聖堂はドゥッカーレ広場の短辺を占めています。

聖堂の正面はバロック式で、中心軸からややそれて、右を向いていますが、広場に向かって緩やかに凹んで湾曲をしているためにその偏りも気がつかないほどです。

大聖堂の正面には四か所扉口が有るように見えますが、一番左は門になっており、ローマ通りにつながっています。

963 年(一説に 967 年)に建立された聖堂で、現在の大聖堂は 1530 年にミラノ公フランチェスコ 2 世により改築され 1680 年に完成しています。

聖堂内はラテン十字形の三廊式で、正面主祭壇の両側の側柱に説教壇が在り、右手の説教壇を聖職者像が、左手の説教壇は四大福音書記者の表象像が支えています。主祭壇は

18 世紀に改修され、四人の聖職者が囲むキボリウムの上にキリスト像が載っています。天井には昇天する聖人とさらにその上には父なる神とキリスト、聖母、聖人が描かれています。その奥の金色に輝く蒲鉾型天井の下が聖歌隊席になっています。交叉廊上のドームには殉教者と天使が描かれていますが、全ての天井にフレスコ画が描かれた華やかな聖堂です。

右翼廊の聖カルロ・ボッロメオ礼拝堂（Cappella di San Carlo Borromeo）には、ベルナルディノ・フェラーリ(Bernardino Ferrari)作の、カンタベリーの聖トマスを中心に聖エレナと聖アガタの描かれた「祭壇画」1510 年、と中央に聖アゴスティノが座し、左右に聖アンブロージョと聖モニカの描かれた「祭壇画」があります。

また、聖ジャコモと聖クリストフォロ礼拝堂(Cappella di San Giacomo e San Cristoforo)には、同一画家の「祭壇画」が納められており、、中央に聖母子と天使、上にキリスト

の十字架降下、右側に聖フランチェスコと聖クリストフォロ。左側に聖ドメニコと聖ジャコモとが描かれています。
なお、その他にも祭壇画や 16 世紀の聖遺物容器や後期国際ゴティック様式のタピストリーが見られます。

◇ 聖フランチェスコ聖堂　　（San Francesco）

聖堂の前の広場には井戸があり、聖フランチェスコが鳥と戯れる像が置かれています。
正面扉口は一つで、上に丸窓があり、両脇には尖塔アーチ型の窓が並び、矩形の片蓋柱が切妻屋根まで伸びています。屋根には五箇所に尖塔が載っています。
1379 年に建築され、1447 年に改築されて 1457 年に完成しています。鐘楼は 1475 年の建設です。ナポレオンがイタリアを占領していた時代は兵舎として使用されましたが、その後聖堂として復活しています。なお、正面は 20 世紀に改装され、右側面に扉口が追加されました。

聖堂内は三廊式で、正面主祭壇には大理石のキボリウムがあり、その上には聖フランチェスコのフレスコ画があります。身廊の天井には 12 使徒が描かれ、主祭壇の上の八角形のドームとアプシスのステンドグラスから採光されています。穹窿天井を支える束ね柱は全て赤と灰色の縞模様の大理石で、聖堂の中に独特の雰囲気をもたらしています。
側面には 16 世紀から 17 世紀に作成されたベルナルディノ・フェラーリ派（ヴィジェヴァノ派）の多くの作品が掲げられています。

〇ベルナルディノ・フェラーリ（Bernardino Ferrari）(1490-1524)
ヴィジェヴァノで生まれ、ヴィジェヴァノでペストにより死去しています。短命であった為に作品は多くは残されていません。
ミラノに出て、数か所の聖堂でフレスコ画の制作に関わってきましたが、ベルナルディノ・フェラーリの作品と同定されたのは近年になってからのことです。
ミラノの聖マウリツィオ聖堂（San Maurizio）は多くのフレスコ画で埋め尽くされた華やかな聖堂です。その多くはベルナルディノ・ルイーニ（Bernardino Luini）の作品とさ

れています。その中で、信者の間（Aula dei Fedeli）の主祭壇の最上段の中央に掲げられた「聖母被昇天」はベルナルディノ・フェラーリが描いています。
ヴィジェヴァノ派の開祖とされていますが、継承者から高名な画家は出ていません。
最大の傑作はヴィジェヴァノの大聖堂に収められた上記の祭壇画です。

なお、ヴィジェヴァノの西にあるヴェルチェリ(Vercelli)やその北のヴァラーロ(Varallo)で活躍したゴウデンツィオ・フェラーリ（Gaudenzio Ferrari）(1475-1546)　は活躍年数も長く、多くの作品を残しています。その名前が似ていることや、同時代人であることから、ベルナルディノはゴウデンツィオの作品と混同されたり、模倣したとの誤解を受けていました。

今年は「新型コロナウィルス」が全世界的に猛威を振るい、どこの国にも出かけられない状況となっています。日本においても、学校はオンライン授業となり、図書館も閉鎖されており、どこにも行く所が有りません。昨今漸う美術館が予約制でオープンしたようです。
やむを得ず、訪問したイタリアの写真などを眺めていました。
ちいさな町の聖堂に保存されているフレスコ画や絵画を調べていくうちに、何となく出来上がったのがこの小冊子です。あまり町が多すぎても如何なものかと思って、２０ほどにしました。
秋の夜長にパラパラとめくっていただければ、たちまち睡魔に襲われ、安眠できること間違いなしと思います。

写真は現地で撮影したものですから、映りの悪いものもあります。ご興味をお持ちになったら、インターネットで調べていただければ、鮮明な写真が出て来ることと思います。

早く以前のように、自由に出かけられることを期待しています。
皆様のご健勝をお祈りしております。ご自愛ください。

２０２０年秋
清水茂俊